2023 年度

教育改善向上（FD）活動年報

東京未来大学

2024 年 3 月 21 日

はじめに

今年度もまた教育改善向上（以下、FD）委員会の活動報告書である『教育改善向上（FD）活動年報』をお届けできることを嬉しく思います。

東京未来大学FD委員会では、FDに関する年2回の研修会の実施、教員相互の授業参観の実施、学生による授業評価アンケートの実施、ベストティーチャー賞の選定、FD 紀要の発行などを行っております。授業のやり方は、科目の特性、講師の特性、受講生の特性などにより多様性があり、それが生の授業の良さでもあります。ただ私たち教員は漫然と同じような授業を繰り返すのではなく、自分の目の前の学生たちの反応を見てやり方を調整する必要もあります。時代とともに変わるツールや受講生の気質に柔軟に対応することも求められる現状において、研修会や授業参観などの活動が何らかの助けになれば幸いです。

また、図書館にひっそりと設置されているFD図書コーナーの書籍も年々充実しつつあります。大学における教授方法や評価方法について、教員が自ら調べ学べることができるようなものを揃えておりますので、授業の進め方に迷われたら、ぜひご活用いただけたらと思います。

本委員会活動は限られた人数と時間で行なっているため、至らない点が多々あるとは存じますが、本活動年報が何かのご参考になれば幸いです。

今後もより充実したものとなるFD活動を検討しております。引き続き、皆様のご協力をいただければ幸いです。

東京未来大学
教育改善向上委員会
委員長　大橋　恵

目 次

はじめに

1　2023 年度教育改善向上（FD）構成員と活動記録…… 1
(1) 委員会　構成員
(2) 各部会　構成員
(3) 委員会　活動記録
(4) 各部会　活動記録

2　学内における教育改善向上（FD）研修…… 7
(1) 2022 年度第 2 回 FD 研修会（3 月）実施概要と実施結果
(2) 2023 年度第 1 回 FD 研修会（9 月）実施概要と実施結果
(3) 2023 年度第 2 回 FD 研修会（3 月）実施案

3　教員相互授業参観について…… 17

4　学生による授業評価…… 23
(1) 学生による授業評価の目的と概要
(2) 通学課程における授業評価アンケート
(3) 通信教育課程における授業評価アンケート

5　ベストティーチャー賞の選出について　…… 35

6　その他の活動…… 36

7　資料
(1) 研修会資料　2022 年度第 2 回分：合理的配慮について
(2) 研修会資料　2023 年度第 1 回分：合理的配慮を要する学生への支援
(3) 2023 年度秋学期授業評価アンケート
　A) 授業評価アンケート実施要領
　B) 授業評価アンケート実施の手引き（教員用）
　C) 授業評価アンケート実施の手引き（学生用）
　D) 授業評価アンケート実施のお願い

1. 2023 年度教育改善向上（FD）構成員と活動記録

(1) 2023 年度　東京未来大学　教育改善向上（FD）委員会　構成員

委員長　大橋　恵（こども心理学部）
委員　今井　康晴（こども心理学部）
　　大内　善広（こども心理学部）
　　杉本　純哉（エンロールメント・マネジメント局）
　　杉本　雅彦（モチベーション行動科学部）
　　鳥海　弘子（こども心理学部）
　　野中　俊介（こども心理学部）
　　森下　一成（モチベーション行動科学部）
事務　菅原　恵（エンロールメント・マネジメント局）
　　田中　翔（エンロールメント・マネジメント局）
　　逸見　亜耶（エンロールメント・マネジメント局）
　　大柿　瑠衣（エンロールメント・マネジメント局）

陪席　角山　剛（東京未来大学　学長）
　　塚本　伸一（東京未来大学　副学長）
　　出口　保行（東京未来大学こども心理学部　学部長）
　　高橋　一公（モチベーション行動科学部　学部長）

(2) 2023 年度　東京未来大学　教育改善向上（FD）委員会　各部会構成員

授業参観の計画・実施・評価部会
　大内善広（長）、森下一成、杉本雅彦
授業評価アンケート部会
　杉本雅彦（長）、森下一成、大内善広
FD 研修・年報等部会
　今井康晴（長）、鳥海弘子、野中俊介
通信及び委員会等及び外部機関との連携部会
　野中俊介（長）、鳥海弘子、今井康晴

(3) 委員会　活動記録

月	日	活動内容
4	19	第 1 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1.　2023 年度 FD 委員会の運営方針と担当案

		2.　2022 年度取組結果 3.　2023 年第 1 回目研修方針について ＜報告事項＞ 1.　FD 委員会が 3 月に全学に配布した事項について 2.　2022 年度第 2 回 FD 研修会（2023 年 3 月 23 日実施）報告
5	17	第 2 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1.　2023 年度通信教育課程授業評価アンケートの実施について 2.　2023 年第 1 回 FD 研修について 3.　2023 年度春学期授業参観の実施について ＜報告事項＞ 1.　2022 年度秋学期通信教育課程授業評価アンケート結果について 2.　授業評価アンケート設定進捗状況報告
6	14	第 3 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1.　令和 5(2023)年度自己点検・評価・改善活動【取組計画】 2.　2023 年度春学期授業評価アンケート実施について 3.　2023 年度教育改善（FD）年報について ＜報告事項＞ 1.　9 月全体会議内 FD 研修進捗報告 2.　春学期相互授業参観進捗報告
7	26	第 4 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ なし ＜報告事項＞ 1. 授業評価アンケート部会　活動報告（2023 年 4 月～7 月） 2. 2023 年度第 1 回 FD 研修案内について 3. 授業参観部会報告 4. FD 紀要部会報告
10	2	第 5 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1. 2023 年度春学期授業評価アンケートにおける計算ミスについて ＜報告事項＞ なし
10	18	第 6 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1.　自己点検・評価・改善活動の中間報告

		2.　2023 年度 FD 年報査読スケジュール案 3.　2023 年度秋学期授業参観の実施について ＜報告事項＞ 1.　2023 年度春学期授業参観の実施報告 2.　2023 年度春学期通信教育課程授業評価アンケート結果 3.　2023 年度第 1 回 FD 研修報告書 4.　2023 年度授業評価アンケート部会活動報告（9 月）
11	15	第 7 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1.　2023 年度第 2 回 FD 研修会 2.　2023 年度ベストティーチャー選出基準 ＜報告事項＞ 1.　授業評価アンケートにおけるシステム変更 2.　2023 年度相互授業参観
11	22	第 8 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1．2023 年度秋学期授業評価アンケート ＜報告事項＞ なし
12	13	第 9 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ なし ＜報告事項＞ 1．2023 年度春学期ベストティーチャー賞
1	17	第 10 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1.　2024 年度予算案 2.　2023 年度第 2 回 FD 研修 3.　FD 活動年報 ＜報告事項＞ なし
2	7	第 11 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1.　授業評価アンケートシステム移行についての提案 2.　dotCampus 連携改修見積書 3.　授業評価アンケート教員コメント見積書 4.　授業評価カスタム開発見積書

		＜報告事項＞ なし
2	14	第 12 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ なし ＜報告事項＞ 1.　FD 図書の購入 2.　授業評価部会 活動報告 3.　授業参観部会 活動報告
3	6	第 13 回教育改善向上（FD）委員会 ＜審議事項＞ 1.　2023 年度ベストティーチャー賞について ＜報告事項＞ 1.　2023 年度秋学期授業参観実施報告

（4）各部会　活動記録

(1)　授業参観・評価中部会

月	日	活動内容
4	19	・2022 年度授業参観の振り返り ・2023 年度春学期授業参観の目的と方法について ・授業参観スケジュール案について
5	12	・2023 年度春学期授業参観の実施案について
5	23	・2023 年度春学期授業参観の案内方法について
6	15	・2023 年度春学期授業参観のスケジュール周知について
7	12	・2023 年度春学期授業参観に係るアンケート回収について
10	12	・2023 年度春学期授業参観実施報告について ・2023 年度秋学期授業参観の実施案について
10	29	・2023 年度秋学期授業参観の案内方法について
11	10	・2023 年度秋学期授業参観の実施計画修正について
12	7	・2023 年度秋学期授業参観のスケジュール周知について
1	9	・2023 年度秋学期授業参観に係るアンケート回収について
2	19	・2023 年度秋学期授業参観実施報告について

(2)　授業評価アンケート部会

月	日	活動内容
11	8	・授業評価アンケートの実施を C-Learning から CoLS に移行する計画につい

		て、インターレクト株式会社と打ち合わせ
11	16	・2023 年度秋学期授業評価アンケート実施に係る資料の作成と確認、発信 ・FD 委員会承認後、2023 年度秋学期授業評価アンケート実施に係る資料を全教員（非常勤講師含む）に発信
12	6	・2023 年度春学期ベストティーチャー賞の選出作業
12	21	・授業評価アンケートの実施を C-Learning から CoLS に移行する計画について、インターレクト株式会社と打ち合わせ
1	25	・授業評価アンケートの実施を C-Learning から CoLS に移行する計画について、インターレクト株式会社と打ち合わせ
1	26	・授業評価アンケートの移行についての提案書作成のための「DX による作業効率化と回答率向上」資料の作成
2	14	・インターレクト株式会社の見積書について、戦略会議の指示対応のための打ち合わせ ・今後の作業スケジュールについて
2	28	・2023 年度ベストティーチャー賞選出について ・2023 年度通学課程授業評価アンケートの実施結果報告について
3	6	・2023 年度 FD 活動年報の作成について

(3)　FD 研修・年報等部会

月	日	活動内容
4	19	・2022 年度第 2 回 FD 研修進捗報告 ・2023 年度業務内容、分担などの確認
5	17	・2022 年度第 2 回 FD 研修報告について ・2023 年度第 1 回 FD 研修会の調整（研修内容、講師などについて）
6	15	・FD 年報編集（外部発注）下準備 ・FD 年報執筆意向調査開始と論文投稿要綱について ・2023 年度第 1 回 FD 研修会講師依頼等、進捗状況確認 ・FD 年報の執筆意向調査開始（回答期限 7 月末）
7	26	・2023 年度第 1 回 FD 研修会のタイムラインについて ・FD 年報編集のスケジュール確認
9	6	・2023 年度第 1 回 FD 研修会打ち合わせ
10	18	・2023 年度 FD 年報の査読等スケジュール、査読者選定について ・2023 年度第 2 回 FD 研修会について
11	15	・2023 年度 FD 年報進捗報告 ・2023 年度第 1 回 FD 研修会報告 ・2023 年度第 2 回 FD 研修会の内容、人選について
12	13	・2023 年度第 2 回 FD 研修会講師ら打ち合わせ

		・FD 年報編集校正作業等依頼（印刷会社打ち合わせ）
1	17	・2023 年度第 2 回 FD 研修会のタイムラインなどについて ・FD 年報の編集など最終調整
2	14	・2023 年度第 2 回 FD 研修会の準備状況の確認 ・FD 年報編集最終調整
3	6	・2023 年度第 2 回 FD 研修会の講師からの依頼状況を報告し対処方法を検討 ・FD 年報 NO9　完成し配付する

（EM 局）

２．学内における教育改善向上（FD）研修

（１）2022 年度　第 2 回 FD 研修会（2023 年 3 月 23 日）の実施概要およびその報告

下記の通り、2022 年度第 2 回 FD 研修会の実施概要と研修後のアンケート結果等について報告する。

2022 年度 第 2 回 FD 研修会　開催概要(共催:FD 委員会・教務委員会)

１　開催日：2023 年 3 月 23 日
２　参加人数： 134 人
３　実施形態：対面　B421・422 教室
４　時間：120 分（午後 1 時 30 分～3 時 30 分）
５　研修内容：『合理的配慮について』
・講師：筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局　脇 貴典先生
・研修の主旨：教職員の教育に関する知識や技術を高めることを目的とする。今回は、合理的配慮についての講演からその理解を深め、授業運営等に活かすことを目的に研修を実施する。
・グループワーク（30～40 分）：20 分程度ディスカッション、10 分程度シェア、まとめ
６　概要

2013 年に制定された障害者差別解消法で示されている「合理的配慮」、「不当な差別取り扱いの禁止」において、大学教育の「合理的配慮」の在り方について全学を対象に研修を行った。日々の教育活動における「合理的配慮を要する学生への支援」について、筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局脇貴典先生を講師としてお迎えし、具体的な教材の活用や授業の工夫などについての講演が行われた。

参加者の約 96.9%が「興味を持つことできた」と事後アンケートで回答していた。自由記述回答では、「ここ数年、配慮の必要な学生が増え、対応に困っていたところでしたので、とても参考になりました」、「環境と調整、（一方的に聞き入れるだけではなく）対話が大事、などが心に残りました」等のコメントが寄せられ、有意義な研修であったと推察される。今回、合理的配慮に関する質問を事前に聴取し、講師がそれに対してコメントするという方式をとったが「事前に質問を集め，講師の先生に回答をいただく流れがとても充実していたと思います。とても勉強になりました。また事前に質問できる機会をいただけるととてもいいなと感じます」と高評価を得た。またグループワークでは、「先生方とのグループディスカッションの時間もあり、非常に今後のためになりました」、「久しぶりにグループワークができました。グループのメンバーは学部や専攻を横断しても良いのかなとも思います」など意見があった。いずれにせよ高い関心を裏付けるものとして捉えることが出来る。

7　アンケート結果

参加者を対象にアンケートを実施したところ、質問に対する回答は以下の通りであった。

今回の研修会のテーマや内容に興味を持てましたか？

131 件の回答

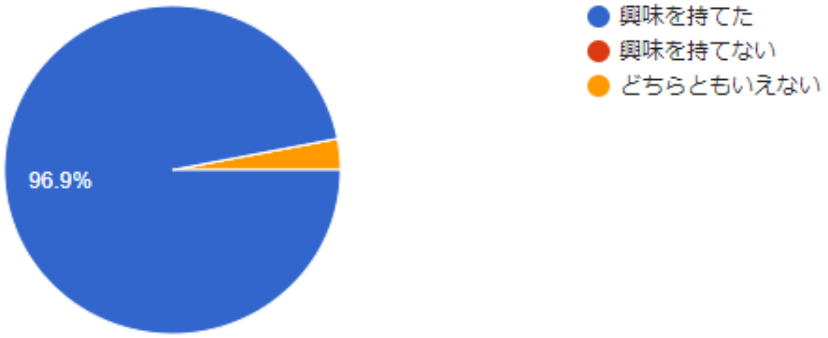


表 1、表 2 には、研修会参加者の感想を示している。本感想からわかるように、多くの教職員が、いずれの研修も自身の授業運営やシラバス作成等にとって有益な研修であったと推察される。

表 1　より詳しく知りたいと思うことがありましたら，自由にお書きください（一部抜粋）

FD 時の質疑応答の質問から，合理的配慮を行ってもうまくいかないケースがあると拝察致しましたが，そうした事例と対応についてどのようなものがあるのかを知りたいと感じました。
合理的配慮申請後の適正な手続きや人員等について、より詳細に知りたいと思いました（本学の手続き等と照らし合わせて）
合理的配慮についてはよく理解できましたが、実際の授業では他の学生との関わりも必要だと思います。合理的配慮を要する学生と他の学生との関わり方、授業担当のそれぞれへの対応の仕方などを、事例をもとに示していただけるとよいのではないかと思いました。
事例のなかでも失敗例、してはいけないことなどを知りたかった
外見では判断つかないので対応が難しいと感じた。合理的配慮が必要な受講生は春と秋学期に１名程度いるが、集中する継続力は不明だが、理解力は一般学生と変わらないと思った。授業終了後、数回尋ねてみたところ毎回楽しいとの返事だった。程度の差はあっても自然体でふるまっていたのが印象的だった。各課題は理解したうえで提出してくれていた。定期試験が無かったので理解度の評価は不明。今後も以上の対応で良いかご教授ねがいたいです。
これまで、実際の授業を進める中で、合理的配慮の学生への対応で困ったり、悩んだりした際には、まず専任の先生方にご相談おりましたが、他に相談できる部署(障がい学生支援を担当する部署など)があるのか、またどのような手順で連絡をしたらスムーズかを知りたいです。
合理的配慮を希望する学生との建設的対話を実施することが重要かつ難しいなと思いました。また授業から派生した授業外での学生同士のトラブル（模擬保育やプレゼンの準備でのトラブル）もあったので、そこに配慮としてどこまで介入できるか、すべきかも気になりました。

合理的配慮についてですが、講師の先生は「(教員が) 一人で抱え込まない」と仰っており、その通りだと私も思います。しかし、本学のリソースは乏しく、教員もCAも一人で抱え込みがちかと思います。「学修支援センター」というセクションが誕生したり、教員やCAが困ったときに頼れる「専門家」なりがいると良いのですが…。
合理的配慮学生の学外実習（教育実習・保育実習）の他大学の事例。例えば、実習先開拓、実習先への説明など。
現実的な実施に当たっては、見守る目も差し伸べる手も足りません。マンパワーが必要な中、担当教員に全て任せてしまう運用に疑問を感じます。小グループのトークでは、やってもらって当然という横柄な学生に違和感を覚えたお話もありました。いくつか事例をご紹介いただきましたが、この学生にはこのような対応といったそれぞれの教員が「I」の意識から「We」の意識をもてる共通理解も必要となってくると感じました。その辺りのチームとしての効率的な運用事例を知りたいです。
合理的配慮の申請の割合としては、１年次が多く、3、4年生になると減少していくといった傾向はあるのか、申請した後も申請内容は継続する傾向にあるのかどうか知りたいと思いました。

表２　今回のご感想や，今後のFD研修へのご要望等がありましたら，自由にお書きください（一部抜粋）

配慮申請につきまして、学生と関わる以上、より深い学び・知識が必要だと感じました。また、情報をリアルタイムで共有することも大切だと感じました。現状難しい課題であると感じますが、このような研修を通し、知識を付け、状況に合わせた対応を身につけたいです。
音声の件は、とても残念でした。内容は、非常に興味が持てました。
通信教育部でも合理的配慮が必要な学生が年々増えていることも考えると、学ばなければならない内容だと感じました。スクーリング時などではないと学生と接する機会がありませんが、スクーリング時の配慮やその他の場合の配慮も対応できると良いと思いました。
アクシデントがありディスカッションの時間が短縮されてしまったのは残念でした。実際の体験談や苦労話などでもシェアしあう時間がもう少しあったらより良かったなと感じました。
知的障害の性質、程度別に、より具体的な対応例をいくつか映像などで視覚的に示していただけると、分かりやすかったのではないかと思いました。
今後の要望ですが、学生のSNS利用があたり前になった一方、実習等において、SNSに関するトラブルが増えています。そのため、SNSの使い方や、SNS利用に係る守秘義務や個人情報保護に関する学生への意識づけや正しい理解が必要なように感じています。それらを学生たちに指導する教職員が、まずは正しく知識を得て理解しておく必要があるように思われますので、上記に関する研修があると有難いです。
非常勤講師だと、合理的配慮が必要な学生が、第一回目の授業の際に申告してくることがあり、大学側もそれを知らないこともあった。チームになって対応が必要ということだったので、専任だけの情報共有ではなく、非常勤にも情報を共有してほしい。また、非常勤からも情報を提供できる場があると良いと思う。
CAが学生と保護者と合理的配慮の内容を確認して、それを実施いただく先生に実際にどのように配

慮いただくかの繋がりの難しさを感じました。配慮の内容を一緒に確認するのはCAですが、行っていただくのは授業を担当される先生なのでCAと先生の連携も大事だと感じました。
ラーニングサポートブックをぜひ大学で契約していただけたら、学生にも活用できるのではないかと思います。前向きにご検討いただけましたら幸いです。
テーマの選択がよく、今後実習関係など複数の先生と協働する授業の際に、ベースとして同じ知識が入っているのは心強いです。企画してくださりありがとうございました。
学生本人が自分のことを語れること（得意、苦手、補助）は私自身も大切だ思っていたので共感いたしました。また、負担になってしまう場合は合理的配慮ではないと話されていたことについて、知ってはいたものの忘れそうな点なので、今一度振り返る良い機会になりました。「ごほうびBOX」は今回初めて知りましたが、日常的な心理支援にも使えて良いと思いました。最後に、「配慮というのは環境調整」という言葉は合理的配慮が特別なことではないと周知する良い言葉だと感じました。
合理的配慮に関してはまだまだ知識がなく、対応に迷うことや不安なこともありました。合理的配慮に関して基本的な知識も十分になかったのでとても勉強になりました。グループワークの中でも先生方から、発達障害という見方ではなく「特性」という見方をすることの重要性という意見もあり、新たな視点を持つことができました。
色々とご準備いただきありがとうございました。実際に支援の必要な学生がいますので、有意義な研修会でした。支援の必要な学生について、不便さを理解することはできても、評価レベルを下げられない状態で、合格レベルまで理解させ、学習成果を形に示せるように指導するため、具体的に何ができるのか悩ましいところです。症状を理解していながら合格点までに能力を引き上げてあげられないのはつらいので、学習支援に関して、さらに踏み込んだ内容を学べる研修会を希望します。

作成：FD研修・年報等中部会（今井・鳥海・野中）

（２）2023 年度　第 1 回 FD 研修会（2023 年 9 月 20 日）の実施概要およびその報告

下記の通り、2023 年度第 1 回 FD 研修会の実施概要と研修後のアンケート結果等について報告する。

１　開催日：2023 年 9 月 20 日
２　参加人数：132 人（対面 129 人、遠隔 3 名）
３　実施形態：対面　B422 教室
４　時間：120 分　午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分（休憩 10 分含む）
５　タイトル：合理的配慮を要する学生への支援
　講師：脇先生（筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局）
　パネリスト：山極先生（東京未来大学学生相談室）
　　：真家先生（東京未来大学保育教職センター）
　　：田中 CA（東京未来大学 EM 局）
①挨拶（3～5 分）：大橋 FD 委員長
②シンポジウム次第
・田中 CA「合理的配慮の入り口から出口まで」（20 分）
・真家先生「合理的配慮を要する学生に向けた実習指導の現状」（20 分）
・山極先生「合理的配慮に関する困りごとの現状および経過」（20 分）
＜休憩（10 分）＞
③指定討論者講話（30 分）
④質疑応答（10～15 分）
事後アンケート（時間外）

６　概要
2013 年に制定された障害者差別解消法で示される「合理的配慮」、「不当な差別取り扱いの禁止」において、大学教育の「合理的配慮」の在り方について全学を対象に研修を行った。2022 年度第 2 回 FD 研修に引き続き、「合理的配慮を要する学生への支援」をテーマとした。今回はシンポジウム形式で行い EM 局から「合理的配慮の入り口から出口まで」（田中 CA）とした学生対応に関する報告、保育・教職センターから「合理的配慮を要する学生に向けた実習指導の現状」（真家先生、柴田先生、利根川先生）とした各種実習における対応と報告、学生相談室から「合理的配慮に関する困りごとの現状および経過」（山極先生）とした学生相談の現状について報告がなされた。３つの報告をふまえたうえで筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局脇貴典先生から現状、対応、工夫などについての講演が行われた。

７　アンケート結果の概要
アンケート結果の約 92.9%が「興味を持つことできた」と回答していた。自由記述回答では、「今

回改めて，学生相談室，保教センター，キャリアセンター，ＥＭ局の連携によって，学生を入り口から出口まで一括して見ていけるような体制作りが必要であるとともに，教職員の知識形成も重要であることを実感しました。ＦＤ研修の枠をはみ出すかもしれませんが，多様な学生たちと向き合うときに押さえておくべき人権遵守のベーシックな考え方や，教育や就職支援に関する基本的な法理念などについて法曹関係者のお話も聞いてみたいと思いました」、等の回答が寄せられた。大学教育、学生指導、実習、学生相談という垣根を超えた共有によって有意義な研修であったと推察される。また、卒業後の進路に対する配慮、ゼミでの配慮など様々な観点での気づきを得ることが出来た。加えて前回の流れを踏まえての研修であったため「前回から継続してテーマ・講師ともに引継ぎ積み上げていただけたことがよかったです。事例資料を作成するにあたり、担当教員間で改めて一緒に考える機会になりました。」などの好評価を得ることもできた。いずれにせよ高い関心を裏付けるものとして捉えることが出来る。

今回の研修において、「担当する授業ではどうすればよいか」といった課題に対して知見を得ることが出来た。学生相談という専門部署からの事例の共有もさることながら、学生の理解、保護者の理解、また必要書類の提出といったプロセスの理解を知る好機となった。その際に生じる課題、困難、そして申請後の学生生活を含め必要な配慮を考える機会となった。加えて、実習という通常の授業とは異なるシチュエーションでの困りごと（学生、教員ともに）について全学で共有できたことも高評価となった。合理的配慮に関する今後の課題としては、まず支援に対する継続的な研修が挙げられる。また各教員が授業で実際にどのように配慮を行っているか、その配慮の経過と結果について検討も挙げられる。個別性、気密性が高く、多くの教員が担当するゼミ活動における合理的配慮を含め、その実践について共有することが求められる。

８　アンケート結果の一部抜粋

参加者を対象にアンケートを実施したところ、質問に対する回答は以下の通りであった。

今回の研修会のテーマや内容に興味を持てましたか？

112 件の回答

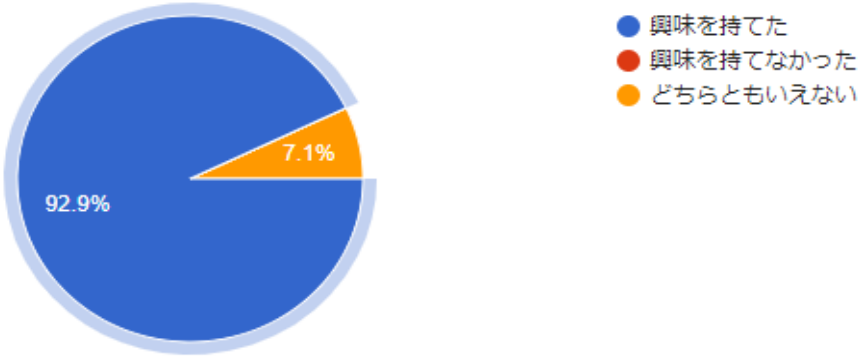


表１、表２には、研修会参加者の感想を示している。本感想からわかるように、多くの教職員が

自身の担当する授業での対応、今後の展望などにおいてに有益な研修であったと推察される。

表 1　より詳しく知りたいと思うことがありましたら，自由にお書きください（一部抜粋）

秋学期過去台件数の合理的配慮が出たこと、また昨日脇先生からも全国的に増加しているとお話がありましたが、増加に至った経緯や要因があるのか気になりました。
対応が困難と判断した事例などが気になりました。
合理的配慮に至らない、不安を抱える学生、もしくはこちらから見た時に不安のある学生への対応について。
合理的配慮について、学生・教職員双方で確認した上でも、成績評価が不合格になってしまった場合の伝え方
時間的・物理的に無理がなく、しかも学生の利益となる合理的配慮の仕方についてもっと詳しく知りたいです。
保育者養成では合理的配慮学生への対応や、合理的配慮にこれからつながるかもしれないケースに関する論文も少ないため、対応の方向が妥当であるか、対応が学生さんが伸びる方向で役に立っているのか等を検討する際に参照できるようなケース検討集を探しております。もし、ご存じでしたら、教えていただけないでしょうか。もし可能でしたら、よろしくお願い申し上げます。
評価基準設定の事例があればお聞きしたいです。
他学の合理的配慮に関する支援体制と支援の実際について比較する内容をお願いしたい。本学の取り組みが十分であるかどうか，分かると思う。
合理的配慮の必要性は感じますが、資料を配布しない授業でも別途資料を作成する、もしくは授業スライドを渡すといった配慮が必要かどうか。また、申請していない学生の便乗などの対応が気になりました。
今回、学生相談室から話題提供させて頂いた後に、複数の先生方からご質問やご感想を頂きました。それらは「自分が担当するこの授業ではどうすればよいか」といったものが多かったです。もし合理的配慮についての今後があるのであれば、各教員、授業で実際にどのように配慮を行っているかという「配慮の経過と結果」についての内容は知りたい先生方が多いのではないでしょうか。
病気や障がいを持つ学生にどこまで配慮をすべきなのか？　アカデミックハラスメントとならないようにするための方法を知りたいです。
今後の研修で取りあげていただきたいことは、「ゼミ運営」です。教員の裁量と言われればそれまでではありますが、ゼミ生の生活や進路にどこまで関わるものなのか、プライベートな関りをどこまでするのか、卒論作成でどの程度「手を貸す」のか、通常の講義よりも密接な関係になるのでハラスメント対策として気を付けることは何なのか、そうしたことが知りたいです。

表２　今回のご感想や，今後のFD研修へのご要望等がありましたら，自由にお書きください（一部抜粋）

本日も非常に今度の学生支援において役立つことをご教授いただきありがとうございました。学生の就職（出口の部分）も考え、徐々にでも配慮内容を軽減することも考える必要があるということを知り、今後の支援に役立てたいなと感じました。また、話を進める際は、建設的なコミュニケーションを心がけ親身に対応したいです。また、私はこども保育・教育専攻のＣＡのため実習や学外の活動では支援内容が異なったり、健康に関する申告書に基づいて議論がされるということも知れました。本当にありがとうございました。
合理的配慮を要する学生への支援について継続的な研修をお願いします。学生と直接接する立場として、さまざまな角度から何度も研修をすることで現場で対応できるようになると思います。
この度は、貴重な学びの機会をご用意くださりありがとうございました。今回お話を伺って、実習担当の先生方が個別対応に丁寧になさっていることを初めて知りました。私自身、担当授業で障害児について扱っていますので、配慮を必要としない学生たちへの教育も大事ではないかと思いました。大学におけるインクルーシブ教育について、自分なりに考えていきたいと思います。意義にある研修会を企画してくださり誠にありがとうございました。
「合理的配慮」という言葉の奥深さを感じた。山際先生、田中CAの話をもう少し深く聞きたかった。
今回のシンポジウム形式はそれぞれの立場からの現状を知ることができ勉強になりました。最終的には実習に関する話でまとまっていきましたが，合理的配慮学生の実習指導の難しさや体制の必要性が可視化され全体で把握することができたのでとてもいい時間だったと思いました。ありがとうございました。
要配慮学生の話題として、とくに実習を取り上げてもらったことに感謝します。実習に携わる関係者は、日々苦労を重ねており、いわば日常的な話題ですが、その一方で実習に携わっていない教職員は、想像すら働かない領域であろうと思われます。今回の研修で、その日常的な実習指導の困難さが少しでも共有できたのではないかと思い、その意味で非常にいい研修だったと思います。
学生とは関わることが少ない事務員でも、合理的配慮については、しっかり理解しないといけないな、と感じました。実習事務をしておりますが、実習先より最初に連絡を受けるのは事務員ですので、合理的配慮のある学生・どういった支援を要するのか等、把握しておく必要があると思いました。教職員全体での共有も大切だと感じております。貴重なご講話をいただきまして、ありがとうございました。
合理的配慮で、できることと、できないことを、学生にどう理解してもらえるのか、その過程を考えていきたいです。
希望件数も増えてきている中、改めて合理的配慮の内容について、具体的な事例も踏まえて教えていただき、より理解が深まりました。合理的配慮の申請がありましたが、障壁を取り払えないまま退学してしまった学生が過去にいましたので、今後対応する学生については今回の内容も踏まえて、関わっていきたいと思います。
学生生活委員会で、合理的配慮申請の中の「一人で昼食を取れる場所の確保」の審議をしました。結果的には承認されましたが、委員の中には「学業とは関係がない」として不承認の立場の先生も

いました。あくまで教務的な配慮に徹するべきなのか、学生生活全般（と言っても学内でのこと）にも配慮をすべきなのか、議論となりました。実際のところ、どうなのでしょうか。また、組織的な対応が重要だと思うのですが、配慮についての理解や熱量は教員によって異なる現状があります。学修支援室（障害／疾患のある学生のみならず学力の低い学生の対応も考える）という部署を設置して管理や啓蒙を行うものなのか、あるいはEM局（CAの先生方）と心理臨床センター（学生性相談室）がこれまで通り担うのか（機能を拡充するとしても）、将来的にはどちらが良いのでしょうか。悩ましいと思いました。
合理的配慮を申請している学生以外にも配慮を求めてくる学生もおり、実際の講義の際、対応に苦慮することがあります。合間に、他の先生方とそういったお話もできたので、とても有意義でした。どうもありがとうございました。
クラスマネージメントに関する教学・EM間の意識の差について，それを埋める内容を希望します。学生の状況として，授業として、プロジェクトとして，何が望ましく何が望ましくないのか，その点に関する全学的な共通認識がないので。
合理的配慮が必要な程度にもよると思うが、動画にもあったように卒業後の進路が気になった。大学として資格をあたえるということは、その職業（保育士など）に必要とされる能力を要しているというお墨付きを与えることだと思う。しかし、例えば他者との関わり合いに合理的配慮が必要で授業のグループワークに参加できなかった学生に、資格を与えてしまって本当に良いものなのだろうか？保育士は現場にでてから高い対人関係力が必要とされる職種だと思うので、このような学生は資格取得要件を満たしていると認定してよいのだろうか？今後も議論を深めていかなければいけない大変難しい問題だと思う。
通信学生にも合理的配慮を求める学生が増えてきているため、今回の研修内容は大変参考になりました。通学と通信では対応可能な配慮の内容も異なるため、配慮の可能な範囲の見極めが難しいと感じました。

作成：FD研修・年報等中部会（今井・鳥海・野中）

（３）2023 年度　第 2 回 FD 研修会（2024 年 3 月 21 日）の実施案

下記の通り、第 2 回 FD 研修の実施を予定している（情報教育センターとの共催)。

記

１　開催日：2024 年 3 月 23 日
２　参加人数：専任教員全員、非常勤講師・EM 局職員の一部
３　実施形態：対面　B422 教室
４　時間：120 分（午後 1 時 30 分～3 時 30 分）（休憩 10 分含む）
５　研修内容：
テーマ：大学教育における ICT の活用
講師：北澤武先生（東京学芸大学）
研修の主旨：ICT や生成 AI の活用が期待される昨今の情勢において、大学教育では ChatGPT などの使用が課題となっている。一方で、ICT の積極的な活用や教材としても期待されている。研修では、大学教育における ICT の活用を中心に、メディアリテラシー、生成 AI の向き合い方などをテーマとする。また授業内での ICT 活用の事例、教員養成における ICT の活用などの理解を深めることを目的とする。
６　タイムスケジュール
　挨拶（3～5 分）：大橋 FD 委員長
　講演：北澤武先生（90 分）
　（休憩　10 分）
　質疑応答：15 分

　＜備考＞
　事後アンケートは時間外に実施

以上

３　教員相互授業参観について

本学では、教員個々の授業における取り組みを相互に参観することによって、授業運営のさらなる研鑽の機会とすることを目的として、春学期･秋学期に教員の相互授業参観を実施している。今年度は春学期・秋学期ともに通学課程の授業参観を実施した。秋学期は新たに、授業参観者のアドバイス・メッセージを参観対象となった先生方に個別にフィードバックする試みを行った。

(1)2023年度春学期 教員の授業相互参観について

2023 年春学期には、通学課程の授業参観を実施した。概要を以下に示す。

実施期間：令和 5(2023)年 6 月 19 日(月)～7 月 7 日(金)
参観対象科目：期間中に行われている通学課程の全科目
参観された科目：

保育実習Ⅲ事前指導、子ども学、英語Ⅰ、知覚・認知心理学、産業カウンセリング、音楽実技ⅢA、心理学英書講読 A、物理学、保育内容総論（保育指導法)、特別支援教育、初等社会科教育法、社会・集団・家族心理学 A、社会科・公民科教育法 1、心理実習、学習・言語心理学、モチベーション論Ⅰ、教育の情報及び技術、保育実習指導ⅠB（事前・事後)、対人コミュニケーションスキル、心理学的支援法、子育て支援、保育カリキュラム論（計画と評価)、国語表現、グローバルビジネス、企業と社会的責任、教育実習指導Ⅰ、経営学概論、企業と社会的責任、心理学統計法Ⅱ、ビジネス英語、消費者行動分析、基礎演習Ⅲ、福祉心理学、保育実習指導Ⅱ、公共経営と政策、発達心理学、社会科教育指導法、情報科学概論、在宅保育研究、造形表現指導法、教育心理学、健康指導法、環境指導法

アンケート回答数：52 件（内訳　CA2 名、こども保育・教育専攻 19 名、心理専攻 11 名、モチベ 15 名、非常勤講師 1 名)。
専攻ごとの回答率は次のとおりである。

こども保育・教育専攻：73.1%(19 名/26 名中)
心理専攻：64.7%(11 名/17 名中)
モチベーション行動科学科：83.3%(15 名/18 名中)

考察・改善点：

コメントでは、アクティブラーニングを中心とした授業運営の工夫に関するものが多く見られ、参観対象科目の先生方の様々な取り組みが参考になったという肯定的な意見が多かったように思われる。授業参観の視点として「学生が意欲的に授業に取り組むための工夫や取り組みなど」「学生の科目に対する興味・関心を喚起するための工夫や取り組みなど」「授業における学生のマナー

向上に資する工夫や取り組みなど」「その他、授業における望ましい環境を構築するための工夫や取り組みなど」の 4 点を示した上で実施したが、こうした視点で授業参観されたと感じられるコメントが多く、授業参観の目的を十分に達成できたと考えられる。

コメントの中には、参観授業に対するアドバイスやメッセージも含まれていたため、今後、授業参観対象となった担当教員にコメントをフィードバックできる実施体制を検討する必要があると考えられる。

以下に具体的なコメントを【授業の進行・運営】【授業内容】【授業準備】【大人数／少人数への対応】【その他】の項目に分けて示した。

【授業の進行・運営】

- 学生からのコメント（付箋紙）から授業内容に関係するトピックを拾って話を広げている様子が印象的でした。
- ワークと授業の長さ、順番、呈示のタイミングなどのバランスが良く、授業構成が素晴らしかったです。学生が飽きずに受講していました。
- 講義の中に学生への問い掛けが散りばめられており、学生が発言する機会が多く作られていた。また、学生が疑問に思うことを、その時に発言できるような場作りがあった。学生からの発言を取り上げつつ、話題が脱線することもなく、全員を巻き込みきちんと回答しながら授業を進めていくことを見習いたいと思った。
- 授業の構成、スライドに投影する資料の提示の仕方、説明の仕方などを参考にさせていただきました。自分自身が秋学期に３年生の授業を担当するため、学生の様子を知ることもできました。授業の相互参観が目的でしたが、特別支援教育について私自身が勉強になりました。
- オンライン上のツールを活用し、以前の授業でまとめた内容を参照しながらグループディスカッションをしていた。
- データに基づくレポートの書き方とプレゼンの科目であり、専門的に指導していることがよくわかった。40 名クラスでのグループワークを教員一人で担当するのは大変だが、学生たちは生き生きと進めていました。教え方はわかりやすく、資料も充実していましたが、内容が高度であり、現カリではプレゼンや 2 年次専門科目で扱っていることも多く含まれていることが分かったため、依頼の際には前後の科目との連携をきちんと説明する必要性が明らかになりました。
- 講義内容がテキストをベースにしながら現代における事例を豊富に紹介しながら進められていた。時事的な内容の取り込みについては大いに参考したい。
- 学生が興味をもてるよう、新聞記事や動画、クイズを用いて理論の説明を補足している工夫がみられた。

【授業内容】

- 現場経験を踏まえての教育法から、私自身も学ぶところがあり、今後の教職課程の授業にも活かしたいと思う。

- 中等学校社会系教科における「主体的・対話的で深い学び」の実現をテーマとした講義が展開された。学生に知識的概念を形成させるのではなく、学んだことを演習などを通して体験的に獲得していく場面が見られた。
- 園長先生の講話が授業内容でした。2 年生全体の様子や雰囲気、どのような態度で実習指導を受けているのか、実態を見ることができました。
- ご自分の幼稚園勤務時代のお話を取り入れるなど、事例を多く含む授業をされていて、非常に勉強になりました。また、非常勤講師でありながら、トマト栽培実習を取り入れていることが素晴らしく、そのモチベーションはどこから来るのか伺ったところ、「学生たちが保育園や幼稚園に就職したら、栽培の経験が必ず必要となるので、ぜひ学生時代に体験をさせてあげたい」という強い思いで実施されているとわかりました。私自身も、学生たちに様々な経験をさせたいと乳幼児との関わりやベビー人形を使って抱っこやおむつ替えなどの体験を行っていますので、今回、講義を参観させていただき、大変だけれどももう少し頑張ろうという気持ちになりました。

【授業準備】

- 家族療法の説明では、歴史も整理されてて、パワーポイントも見やすかった。
- 学生が造形活動の授業立案を行い、模擬保育・授業＋講評を２サイクル行っていた。後半の模擬授業では「ちょうちん」づくりのパーツがよく準備されていて、手遊びを交えたスムーズな導入から、25 分程の創作がよく組み立てられていた。子ども役になって体験することと、大学生に戻って授業を客観的に捉える両方の時間が確保されていて、その切り替えがきちんと意図されている構成は指導法において大切なポイントであると感じられた。教員による講評は、指導案の修正を示しながら、説得力のあるものであった。

【大人数／少人数への対応】

- 授業で説明する内容について、受講生に問いかけ、回答を得ながら、インタラクティブな授業を展開していた。大人数の授業ではなかなか難しいところもあるが（例えば、前方座席の学生からの回答は得やすいが、後方座席の学生からの回答は得にくい)、1 つの進め方として参考になりました。
- 少人数による個別教育ができていてよかったです。

【その他】

- いろいろと多方面にわたって配慮されているのがよかった

(2) 2023年度秋学期 教員の授業相互参観について

2023 年秋学期にも、通学課程の授業参観を実施した。概要を以下に示す。

実施期間：令和 5(2023)年 12 月 11 日(月)～令和 6(2024)年 1 月 15 日(月)

参観対象科目：期間中に行われている通学課程の全科目

参観された科目：

NPO と市民活動、こども美術、コンピュータと人間の接点、プレゼンテーションⅡ、まちづくり論、モチベーション論Ⅱ、レクリエーション援助技術、英語コミュニケーションⅠ、音楽実技ⅠB、家庭、家庭支援論、教育・学校心理学 A、教育学概論（モチベーション）、教育実習指導（事前･事後）（小）、教育心理学、教育相談（モチベーション）、経営管理、公認心理師の職責、子ども家庭福祉、子ども体育、子ども臨床心理学、社会・集団・家族心理学Ａ（社会）、社会科・公民科教育法Ⅱ、社会科教育法、社会科教育法Ⅱ、初等国語科教育法、初等算数科教育法、障害児保育、心理実習、親子関係の心理学、人間関係指導法、総合的な学習の時間の指導法、対人コミュニケーション、日本史Ⅱ、乳児保育Ⅱ、表現、保育・教職論、保育実習ⅠA（事前・事後）、理科、流通論

アンケート回答数：52 件（内訳　CA2 名、こども保育・教育専攻 23 名、心理専攻 9 名、モチベ 15 名、非常勤講師 1 名）

専攻ごとの回答率は次のとおりである。

こども保育・教育専攻：85.2%(23 名/27 名中)

心理専攻：52.9%(11 名/17 名中)

モチベーション行動科学科：83.3%(15 名/18 名中)

考察・改善点：

コメントには授業運営の方法や授業内容に関する具体的な工夫について参考となったといった肯定的な意見が多く、授業参観実施の目的が果たせたのではないかと考えられる。また、今回は授業参観者のコメントや任意記入のアドバイス・メッセージを参観対象科目の先生方に個別にフィードバックする試みを行った。任意記入のアドバイス・メッセージについては参観に対するお礼が主であり、具体的なアドバイスは記入されていなかったが、コメントについては参観対象科目となった先生方の授業実践の長所を振り返る良い機会となったのではないかと考えられる。

今後は、授業参観者だけでなく授業参観対象の先生方においても、より効果的な授業改善の機会となるような授業参観の実施方法について検討していくことが課題となる。

以下に具体的なコメント(一部抜粋)を【授業の進行・運営】【授業内容】【授業準備】【大人数／少人数への対応】【その他】の項目に分けて示した。

【授業の進行・運営】

- 確認テストの回答を振り返りながら前の時間の復習をしたうえで、授業に関係するアンケートを使ってその回の授業に入っていくように構成されており、学生が授業の内容を理解しやすい授業展開をされていたように感じました。スライドの情報量も読みやすい量で、学生の反応を確かめながら話されていたように思いました。ついつい私は詰め込んでしま

うので、参考になりました。

- 英語と日本語のバランスが良く、学生も集中していました。とても、学生が積極的に授業をおこなっている姿が素晴らしかつたです。
- リアルタイムでコルズからのコメント収集及びフィードバック、また大教室でのグループディスカッションなど、私自身が実施したことがない授業展開は目からうろこでした。
- 大人数の授業であるが、学生は集中して授業を聞いていました。雑談も含めて授業を進めるので、集中力とリラックスのバランスが良いです。
- 口癖などもなく、とても聞きやすくわかりやすい授業でした。ホワイトボードを使った板書も秀逸で、大学の授業での板書を前提としながらも散逸することなく整然としていました。受講者数によっては板書の方が効果的であることを教えていただきました。
- グーグルエデュケーションを用いて相互コミュニケーションを通じた授業の展開が参考になった。
- 模擬授業に対する学生へのフィードバックの方法を知ることができてよかった。また，学生に模擬授業に対する課題の種類を知ることができたので，自分の授業にも応用できるところがあることを知ることができてよかった。

【授業内容】

- 対人コミュニケーションの理論と実践について、大変分かりやすく、かつ、論理的、アカデミックに講義されていた。
- 学生が教壇に立った際に、教師として中学校社会科や高等学校公民科を教えられるように、基本原則と方法論を組み立てた授業構成になっていた。特に、秋学期後半の授業と言うことがあり、学生にグループを組ませ模擬授業をやらせ、模擬授業後に、学生と教員が一体となって研究討議会を行う場面が良かった。
- 私の担当科目は、参観させていただいた科目の各論科目となるため、大変参考になりました。１年生でもわかりやすいよう、社会的に話題となったニュース・事例を解説しながら進めており、教授内容が大変参考になりました。
- レクリエーション援助技術を学ぶ授業のため、授業の中で手を使った様々なレクを学生と共に実践されていることが学びになりました。学生と一緒にレクをしながら、なぜ、このレクを行うのか、誰を対象にしてそのレクを行うと、その人の生活にどのような効果があると考えられるのかなど、レクを行う「根拠」や「歴史的背景」を含めて説明することで、学生が「楽しむためのレク」から「人の生活を豊かにするためのレク」へと理解が深まっていると感じました。
- 実習の諸注意を伝える中に先生方が様々な角度から専門的な視点でご指導されていらっしゃるのを拝見し、実習という体験の場に向かう直前だからこそ響くものがあると感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

【授業準備】

- 講義内で実際の園で撮影された２種類のビデオを視聴させ、その違いについて考察させるなど、学生の理解を具体的に促進している様子が見られた。講義準備は大変であろうが、他の模範となる講義方法だと感じた。
- 授業開始前に映像と音楽で準備を促すことや、ご自身の年末年始の過ごし方につき写真を用いて説明すること等、履修者が授業の内容に入る前に集中力を高める工夫をされていること。

【大人数／少人数への対応】

- 「世界がもし 100 人の村だったら」におけるワークショップの授業でした。学生が自分事として考えられるような様々な仕掛けがなされていました。そのため、学生が本気で取り組んでいる姿を見ることができました。100 人を超える受講生自身が動いていくための仕掛けを学ぶことができたと考えます。最後は、しっかり学生たちが思考する場面を設定することにより、メリハリのある授業だったとも思いました。今後、受講生が多い授業において、いかに学生に自分事として授業のテーマを捉えさせるのか、とても参考になりました。
- 受講者が少人数であることを活かし、1～4 年生の異学年でのゼミ形式で授業が展開されていたことです。終始発表者である学生が、授業教員からの質疑に応答する流れで、学生のプレゼンスキルや論理的思考力がしっかり磨かれるなと魅力的に感じました。

【その他】

- 授業内容や方法がとてもわかりやすく、学生に伝わっていたと思います。また、来年度心理演習を履修することを希望している学生を知り、雰囲気を感じ取れ、来年度へのイメージがわきました。

（授業参観・評価中部会：大内）

４　学生による授業評価

（１）学生による授業評価の目的

学生による授業評価の目的は、授業および授業環境をより良いものにしていくことにある。授業評価は通学課程と通信教育課程ともに、授業科目ごとに、授業の内容や方法等に関するアンケート（以下、授業評価アンケート）に受講生が回答することで行われており、結果は授業の担当教員によって確認され、次年度以降の授業を改善するための資料として活用されている。

以下では、通学課程と通信教育課程に分けて、授業評価アンケートの実施方法とその全体的な結果を示す。通学課程は令和 5（2023）年度の春学期と秋学期に実施された授業評価アンケートについて、通信教育課程は令和 4（2022）年度秋学期と令和 5（2023）年度春学期に実施された授業評価アンケートについて報告する。

（２）通学課程における授業評価アンケート

１）授業評価アンケートの実施方法

通学課程における授業評価アンケートは、C-learning を利用して Web 上のアンケートフォームに回答する形式で実施した。学生が授業評価アンケートに回答する際は、CoLS のトップページに貼られているリンクから C-learning にアクセスしてもらい、C-learning にログイン後に表示される履修授業一覧の中から回答対象の授業を選択して、回答を進めてもらった。以下、授業評価アンケート実施方法の詳細を記す。

①実施対象科目

次の実施除外科目を除く全科目を実施対象とした。実施除外科目は、ゼミ（演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究・卒業論文等）、心理・教育・保育実習および各実習の事前・事後指導、受講者数が 10 名未満の科目、集中講義で行われる科目、アンケート実施期間に全授業回がすでに終了している科目とした。ただし、これらの科目においても、担当教員が希望する場合は実施しても構わないものとした。

②実施期間

春学期､秋学期とも､第 12 回から第 13 回授業に相当する期間でのアンケート実施を原則とし、授業進行との関係上で第 14 回授業において実施することも可として、授業担当教員に実施を依頼した。具体的な実施期間は、春学期は 2023 年 6 月 28 日から 8 月 2 日、秋学期は 2023 年 12 月 15 日から 2024 年 1 月 24 日であった。

③質問項目

質問項目は、前年度のそれを踏襲し、以下のように構成した。

すなわち、選択形式 14 項目、自由記述形式 2 項目の、全 16 項目である。このうち選択形式の項目は、授業準備・内容（2 項目）、授業方法（2 項目）、教員の意欲（3 項目）、学ぶ意欲（4 項目）、計画的な受講（1 項目）、課題の量（1 項目）、難易度（1 項目）で構成した。春学期と秋学期で同一の質問項目を用いた。各質問項目の具体的な内容は、表 1 を参照されたい。

授業準備・内容、授業方法、教員の意欲、学ぶ意欲、計画的な受講に関する質問項目については、5 段階（1=そう思わない、2=あまりそう思わない、3=どちらともいえない、4=ややそう思う、5=そう思う）で回答を求めた。課題の量や難易度も 5 段階で回答を求めたが、選択肢が異なっていた（課題の量　1=少ない、2=やや少ない、3=ちょうどよい、4=やや多い、5=多い；難易度　1=易しい、2=やや易しい、3=ちょうどよい、4=やや難しい、5=難しい）。

自由記述形式は、「この授業について、よかった点があれば具体的に記述してください。」、「この授業について、改善してほしい点があれば具体的に記述してください。」の 2 項目であった。

④手続き

1. 授業評価アンケート実施依頼と実施に係る手引き等の配布

授業評価アンケートの実施に先立ち、授業を担当している全教員に、実施手順について記載した資料「授業評価アンケート実施要領」（資料 A）、「授業評価アンケートの手引き（教員用）」（資料 B）も配布した。いずれも PDF 形式のファイルをメールに添付して送信することで配布を行った。学生には、C-learning でのアンケート回答方法を記載した資料「授業評価アンケートの手引き（学生用）」（資料 C）を、CoLS で配信した。あわせて、教職員には「授業評価アンケート実施のお願い」（資料 D）を上記と同様の方法で配布した。なお、資料 A～D はいずれも秋学期用に作成したものであり、春学期で用いたものを準用した。なお、秋学期においては、C-learning の自由記述式の設問項目に以下の文言を付記した。

- **記入内容に責任を持って頂く為、2023 年度秋学期より匿名ではなく記入者情報を集めることにいたします。**
- **記入者情報は担当教員には公表しませんし、評価には影響しません。**

2. 科目登録確認

実施期間前に、C-learning 上に担当科目が正しく表示されているかを確認するよう、全教員に依頼した。手順は、上記の資料「授業評価アンケートの手引き（教員用）」（資料 B）に掲載した。担当科目が正しく表示されていない場合は、教育改善向上委員会（以下、FD 委員会）に連絡してもらい、C-learning 上の設定を修正し、授業評価アンケートを滞りなく実施できるようにした。

3. アンケートの実施

実施期間中に、授業担当教員の指示のもと、学生はその自由意思により授業評価アンケートに回答した。昨年度と異なり、今年度は原則として全授業が対面で行われたため、授業の最初あるいは最後の 10 分程度で実施するよう依頼した。

4. 結果に対する所見の入力と結果の公開

C-learning では、質問項目それぞれにおいて、各選択肢を選んだ人数と、当該科目の平均値および全授業の平均値を確認できる機能がある。この機能を利用し、アンケート実施後に結果を確認し、所見を入力するよう、教員に依頼した。

結果の学生への公開も C-learning で行った。春学期は 2023 年 9 月 9 日から 9 月 21 日、秋学期は 2024 年 2 月 19 日から 3 月 16 日の期間で学生が結果を確認できるようにした。

２）春学期授業評価アンケートの結果

①回答者数・分析対象・指標

全科目(372)の履修登録件数 15,111 に対し、回答件数は 8,400 であった（回答率 55.6%）。実施除外科目を除くと、履修登録件数 1,1529 に対し、回答件数は 7,009 であった（回答率 62.3%）。以上のアンケート実施対象科目（204 科目）における回答を分析対象とした。

②分析結果

各合算指標・項目のデータ数（*N*）、平均値（*M*）、標準偏差（*SD*）を表 1 に示す。また、学部・専攻別、授業形態別、必修・選択科目別、履修者数の規模別の結果を表 2～5 に示す。なお、授業形態（講義／実技・実習／演習）はカリキュラム上の区分である。また、必修・選択科目における「必修・選択科目」は、新・旧カリキュラムによって必修・選択の扱いが異なる科目を指す。

表 1 より、昨年度と同様、＜授業準備・内容＞、＜授業方法＞、＜教員の意欲＞、＜学ぶ意欲＞＜計画性＞の平均値は 4 を上回っており、全体として授業が高く評価されていたといえる。特に＜教員の意欲＞の結果については教員の士気の高さが明瞭であると推察される。今年度は原則として対面授業が全面的に実施され、遠隔授業も併存した昨年度とは条件が異なるものの、授業はこのように一定の評価を得ている。一方で、些細な点を指摘するのに忍びないが、質問をする機会の提供（質問項目 3）の結果については授業を構成する上で課題として考えたい点である。

表 2 においては、学ぶ意欲における授業参加への準備や授業後の考えをどのように深めるか、学生の主体的な学びに課題がみられる。教員の具体的な指示による事前・事後の課題の提供などが学生に求められているともいえよう。

表１　各指標・項目のデータ数・平均値・標準偏差（春学期）

質問カテゴリーと項目			*N*	*M*	*SD*
授業準備・内容	1	準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	6936	4.35	0.40
	2	授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	6975	4.54	0.30
授業方法	3	質問をする機会は十分あったと思いますか。	6937	4.14	0.58
	4	自ら学ぶように促されたと思いますか。	6967	4.36	0.36
教員の意欲	5	教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	6969	4.41	0.42
	6	教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	6951	4.33	0.45
	7	教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	6758	4.31	0.39
学ぶ意欲	8	あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	6952	4.29	0.42
	9	あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	6926	4.07	0.58
	10	あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	6937	4.00	0.39
	11	あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	6947	4.08	0.41
計画性	12	あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	3996	4.29	0.39
課題量	13	この授業の課題の量はどうでしたか。	7009	3.25	0.38
難易度	14	授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	7009	3.42	0.39

表２　学部・専攻別の結果（春学期）

質問カテゴリーと項目		こども心理学部 心理専攻 N	M	SD	こども心理学部 こども保育・教育専攻 N	M	SD	モチベーション行動科学部 N	M	SD
授業準備・内容	1　準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	1137	4.45	0.46	3184	4.34	0.39	904	4.25	0.38
	2　授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	1136	4.60	0.30	3214	4.53	0.31	903	4.51	0.23
授業方法	3　質問をする機会は十分あったと思いますか。	1126	4.13	0.60	3199	4.10	0.54	898	4.15	0.44
	4　自ら学ぶように促されたと思いますか。	1133	4.34	0.39	3215	4.38	0.31	904	4.27	0.39
教員の意欲	5　教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	1132	4.40	0.49	3212	4.39	0.39	903	4.42	0.40
	6　教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	1133	4.42	0.42	3203	4.30	0.47	904	4.28	0.39
	7　教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	1103	4.35	0.42	3120	4.27	0.38	869	4.24	0.33
学ぶ意欲	8　あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	1133	4.35	0.44	3208	4.34	0.38	901	4.14	0.36
	9　あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	1127	4.07	0.63	3195	4.09	0.54	901	3.95	0.55
	10　あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	1129	3.97	0.37	3197	4.12	0.33	898	3.62	0.36
	11　あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	1132	4.11	0.46	3204	4.15	0.38	901	3.88	0.35
計画性	12　あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	632	4.27	0.48	1878	4.33	0.39	520	4.13	0.36
課題量	13　この授業の課題の量はどうでしたか。	1140	3.29	0.44	3233	3.32	0.39	905	3.19	0.33
難易度	14　授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	1140	3.48	0.43	3233	3.38	0.36	905	3.46	0.37

＊複数の専攻・学科にまたがる科目は除外した。

表３　授業形態別の結果（春学期）

質問カテゴリーと項目		講義 N	M	SD	演習 N	M	SD	実技・実習 N	M	SD
授業準備・内容	1　準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	4937	4.37	0.35	1413	4.29	0.49	586	4.42	0.26
	2　授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	4936	4.53	0.24	1415	4.50	0.35	624	4.66	0.18
授業方法	3　質問をする機会は十分あったと思いますか。	4924	4.12	0.43	1394	4.05	0.67	619	4.49	0.23
	4　自ら学ぶように促されたと思いますか。	4928	4.27	0.35	1414	4.42	0.35	625	4.63	0.18
教員の意欲	5　教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	4933	4.39	0.39	1411	4.38	0.48	625	4.62	0.26
	6　教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	4926	4.35	0.41	1409	4.26	0.55	616	4.42	0.27
	7　教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	4777	4.30	0.35	1379	4.26	0.46	602	4.46	0.33
学ぶ意欲	8　あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	4916	4.25	0.41	1413	4.28	0.45	623	4.52	0.25
	9　あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	4901	4.06	0.54	1407	4.05	0.64	618	4.13	0.61
	10　あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	4903	3.87	0.35	1410	4.13	0.41	624	4.29	0.17
	11　あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	4915	4.07	0.39	1412	4.06	0.47	620	4.18	0.21
計画性	12　あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	2788	4.29	0.28	840	4.21	0.52	368	4.48	0.33
課題量	13　この授業の課題の量はどうでしたか。	4959	3.19	0.33	1423	3.36	0.35	627	3.25	0.60
難易度	14　授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	4959	3.44	0.39	1423	3.38	0.31	627	3.46	0.61

表３より、授業形態（講義、実技・実習、演習）による違いを検討したところ、＜授業準備・内容＞、＜授業方法＞、＜教員の意欲＞については相対的に演習科目の値がやや低く、＜学ぶ意欲＞においては実技・実習科目が講義科目及び演習科目に比べて評価が高いという傾向を見せている。特に＜学ぶ意欲＞については、授業に十分な準備をして臨んでいるかとの問いへの講義科目に対する評価の低さは、講義担当教員にとっての課題となろう。

表４より、科目の必選による違いを検討したが、多くの項目で必修科目が選択科目よりも評価

されている。最後に、表 5 より、履修者数の規模による違いを検討した。便宜的に、履修者数が 10～20 人の科目を小規模、21～50 人の科目を中規模、51 人以上の科目を大規模と設定して分析を行った。結果として、＜授業方法＞、＜教員の意欲＞、＜学ぶ意欲＞、＜計画性＞において、小規模科目が中・大規模科目よりも高く評価されているが、このような傾向については、これまで長く指摘されてきている。

表 4　必修・選択科目別の結果（春学期）

		必修			選択		
質問カテゴリーと項目		*N*	*M*	*SD*	*N*	*M*	*SD*
授業準備・内容	1　準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	3108	4.43	0.30	3828	4.30	0.44
	2　授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	3143	4.63	0.19	3832	4.47	0.31
授業方法	3　質問をする機会は十分あったと思いますか。	3115	4.20	0.58	3822	4.10	0.49
	4　自ら学ぶように促されたと思いますか。	3143	4.43	0.34	3824	4.32	0.36
教員の意欲	5　教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	3141	4.51	0.34	3828	4.35	0.45
	6　教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	3131	4.41	0.34	3820	4.28	0.51
	7　教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	3033	4.39	0.32	3725	4.25	0.42
学ぶ意欲	8　あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	3135	4.33	0.38	3817	4.26	0.45
	9　あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	3126	4.10	0.55	3800	4.05	0.60
	10　あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	3115	4.00	0.42	3822	4.01	0.37
	11　あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	3127	4.00	0.45	3820	4.13	0.37
計画性	12　あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	1765	4.27	0.48	2231	4.30	0.31
課題量	13　この授業の課題の量はどうでしたか。	3160	3.27	0.41	3849	3.24	0.36
難易度	14　授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	3160	3.36	0.41	3849	3.46	0.38

表 5　履修者数の規模別の結果（春学期）

		10−20人			21－50人			51人以上		
質問カテゴリーと項目		*N*	*M*	*SD*	*N*	*M*	*SD*	*N*	*M*	*SD*
授業準備・内容	1　準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	128	4.58	0.26	2292	4.29	0.43	4516	4.41	0.34
	2　授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	129	4.73	0.09	2330	4.51	0.31	4516	4.55	0.23
授業方法	3　質問をする機会は十分あったと思いますか。	130	4.56	0.77	2305	4.15	0.59	4502	4.10	0.43
	4　自ら学ぶように促されたと思いますか。	130	4.65	0.08	2331	4.41	0.34	4506	4.28	0.36
教員の意欲	5　教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	129	4.77	0.02	2326	4.39	0.44	4514	4.40	0.38
	6　教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	130	4.59	0.06	2315	4.27	0.49	4506	4.39	0.39
	7　教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	129	4.56	0.02	2261	4.27	0.41	4368	4.31	0.36
学ぶ意欲	8　あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	129	4.49	0.09	2326	4.30	0.40	4497	4.25	0.45
	9　あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	129	4.37	0.06	2315	4.03	0.59	4482	4.09	0.57
	10　あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	130	4.10	0.02	2324	4.09	0.39	4483	3.86	0.38
	11　あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	129	4.20	0.38	2321	4.06	0.40	4497	4.08	0.43
計画性	12　あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	81	4.47	0.35	1392	4.25	0.45	2523	4.32	0.28
課題量	13　この授業の課題の量はどうでしたか。	130	3.18	0.26	2342	3.31	0.40	4537	3.18	0.33
難易度	14　授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	130	3.38	0.52	2342	3.41	0.41	4537	3.45	0.38

３）秋学期授業評価アンケートの結果

①回答者数・分析対象・指標

全科目(348) の履修登録件数 13,542 に対し、回答件数は 7,943 であった（回答率 58.7%）。実施除外科目を除いた場合は、履修登録件数 10,730 に対し、回答件数は 6,588 であった（回答率 65.1%）。以降の分析では、アンケートの実施除外対象科目における回答を除き、実施対象科目（205 科目）における回答を分析対象とし、春学期と同様の指標を用いた。

②分析結果

各合算指標・項目のデータ数（*N*）、平均値（*M*）、標準偏差（*SD*）を表 6 に示す。また、学部・専攻別、授業形態別、必修・選択科目別、履修者数の規模別の結果を表 7～10 に示す。

表 6　各指標・項目のデータ数・平均値・標準偏差（秋学期）

質問カテゴリーと項目		*N*	*M*	*SD*
授業準備・内容	1 準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	6568	4.45	0.36
	2 授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	6567	4.56	0.28
授業方法	3 質問をする機会は十分あったと思いますか。	6567	4.31	0.35
	4 自ら学ぶように促されたと思いますか。	6564	4.48	0.30
教員の意欲	5 教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	6569	4.50	0.46
	6 教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	6568	4.43	0.43
	7 教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	6520	4.43	0.35
学ぶ意欲	8 あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	6565	4.37	0.39
	9 あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	6565	4.22	0.49
	10 あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	6563	4.10	0.34
	11 あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	6566	4.24	0.34
計画性	12 あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	3488	4.39	0.29
課題量	13 この授業の課題の量はどうでしたか。	6564	3.22	0.28
難易度	14 授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	6568	3.37	0.37

表 7　学部・専攻別の結果（秋学期）

		こども心理学部						モチベーション行動科学部		
		心理専攻			こども保育・教育専攻					
質問カテゴリーと項目		*N*	*M*	*SD*	*N*	*M*	*SD*	*N*	*M*	*SD*
授業準備・内容	1 準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	1089	4.50	0.48	3293	4.49	0.29	809	4.51	0.25
	2 授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	1090	4.60	0.42	3291	4.58	0.24	810	4.68	0.16
授業方法	3 質問をする機会は十分あったと思いますか。	1089	4.36	0.34	3292	4.34	0.34	810	4.34	0.36
	4 自ら学ぶように促されたと思いますか。	1089	4.41	0.40	3290	4.50	0.27	809	4.42	0.29
教員の意欲	5 教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	1089	4.50	0.64	3293	4.52	0.35	810	4.62	0.28
	6 教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	1090	4.47	0.53	3292	4.50	0.32	810	4.51	0.23
	7 教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	1082	4.44	0.50	3261	4.46	0.27	809	4.49	0.17
学ぶ意欲	8 あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	1089	4.41	0.50	3289	4.47	0.31	810	4.35	0.26
	9 あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	1089	4.24	0.59	3289	4.32	0.38	810	4.25	0.33
	10 あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	1089	4.08	0.35	3288	4.21	0.31	809	3.88	0.32
	11 あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	1090	4.33	0.37	3290	4.34	0.26	809	4.08	0.32
計画性	12 あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	567	4.45	0.25	1675	4.42	0.29	475	4.27	0.25
課題量	13 この授業の課題の量はどうでしたか。	1089	3.11	0.21	3290	3.25	0.28	810	3.13	0.20
難易度	14 授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	1090	3.41	0.40	3292	3.35	0.34	810	3.39	0.42

＊複数の専攻・学科にまたがる科目は除外した。

表 8　授業形態別の結果（秋学期）

質問カテゴリーと項目		講義 N	講義 M	講義 SD	演習 N	演習 M	演習 SD	実技・実習 N	実技・実習 M	実技・実習 SD
授業準備・内容	1　準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	4225	4.45	0.37	2060	4.44	0.36	283	4.59	0.21
	2　授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	4225	4.58	0.31	2059	4.56	0.26	283	4.73	0.12
授業方法	3　質問をする機会は十分あったと思いますか。	4225	4.25	0.34	2058	4.35	0.36	284	4.60	0.24
	4　自ら学ぶように促されたと思いますか。	4223	4.36	0.30	2058	4.52	0.26	283	4.77	0.21
教員の意欲	5　教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	4226	4.46	0.45	2060	4.51	0.48	283	4.74	0.18
	6　教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	4226	4.44	0.39	2058	4.42	0.48	284	4.50	0.37
	7　教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	4197	4.41	0.34	2042	4.44	0.37	281	4.61	0.21
学ぶ意欲	8　あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	4223	4.35	0.38	2058	4.37	0.41	284	4.70	0.15
	9　あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	4224	4.20	0.47	2057	4.21	0.54	284	4.53	0.26
	10　あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	4223	3.99	0.30	2056	4.19	0.32	284	4.55	0.22
	11　あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	4227	4.24	0.32	2057	4.19	0.36	282	4.52	0.22
計画性	12　あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	2257	4.35	0.27	1096	4.40	0.31	135	4.70	0.19
課題量	13　この授業の課題の量はどうでしたか。	4226	3.13	0.20	2054	3.33	0.33	284	3.16	0.29
難易度	14　授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	4227	3.37	0.35	2057	3.37	0.41	284	3.38	0.38

表 6 より、＜授業準備・内容＞について春学期と大きな変化はない。ただし、＜授業方法＞、＜教員の意欲＞、＜学ぶ意欲＞、＜計画性＞の平均値は 4 以上であり、いずれも春学期の値よりも高かった。これは例年の傾向でもある。

表 7 より、学部・専攻別に結果を比較したところ、＜授業準備・内容＞、＜授業方法＞、＜教員の意欲＞、においてそこまで大きな差はない。しかし、学ぶ意欲においては、相対的にモチベーション行動科学部の低い。これは、こども心理学部との特性上の違いとも推測しうるが、特に質問項目「授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか」の低さに留意したい。

相対的に、＜計画性＞についてはモチベーション行動科学部が低く、＜課題量＞については保育・教育専攻が高く、＜難易度＞では保育・教育専攻が低かった。

表 8 より、授業形態（講義、実技・実習、演習）による違いを検討したところ、＜授業準備・内容＞、＜授業方法＞、＜教員の意欲＞、＜学ぶ意欲＞、＜計画性＞においては、実技・実習科目が演習科目・講義科目に比べて格段に値が高い傾向が見られる。＜課題量＞では演習科目が他に比べて量が多いと評価され、＜難易度＞についてはほとんど差がなかった。

次に、表 9 より、科目の必選による違いを検討した。＜授業準備・内容＞、＜教員の意欲＞、＜難易度＞については選択科目の値が高かった。＜学ぶ意欲＞について、授業参加にあたっての十分な準備は計画性については必修科目上回るものの、それ以外の項目は選択科目が上回っている。＜課題量＞については必修科目が上回った。

最後に、表 10 より、履修者数の規模による違いを検討した。規模の設定は春学期と同様である。結果、質問項目 1 から 12 まで、小規模科目、中規模科目、大規模科目の順に高く評価される傾向が認められた。こうした大規模課目における課題については、すでに指摘したとおりである。

表 9　必修・選択科目別の結果（秋学期）

質問カテゴリーと項目		必修 N	必修 M	必修 SD	選択 N	選択 M	選択 SD
授業準備・内容	1 準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	2554	4.42	0.42	4014	4.48	0.32
	2 授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	2553	4.55	0.33	4014	4.60	0.25
授業方法	3 質問をする機会は十分あったと思いますか。	2554	4.35	0.34	4013	4.29	0.36
	4 自ら学ぶように促されたと思いますか。	2551	4.45	0.33	4013	4.45	0.28
教員の意欲	5 教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	2553	4.47	0.52	4016	4.51	0.42
	6 教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	2554	4.39	0.48	4014	4.47	0.39
	7 教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	2535	4.41	0.41	3985	4.44	0.31
学ぶ意欲	8 あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	2554	4.31	0.45	4011	4.42	0.35
	9 あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	2553	4.16	0.56	4012	4.26	0.44
	10 あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	2552	4.13	0.35	4011	4.08	0.33
	11 あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	2552	4.14	0.36	4014	4.29	0.31
計画性	12 あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	1366	4.42	0.28	2122	4.37	0.30
課題量	13 この授業の課題の量はどうでしたか。	2550	3.27	0.33	4014	3.18	0.24
難易度	14 授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	2554	3.34	0.35	4014	3.39	0.39

表 10　履修者数の規模別の結果（秋学期）

質問カテゴリーと項目		10-20人 N	10-20人 M	10-20人 SD	21－50人 N	21－50人 M	21－50人 SD	51人以上 N	51人以上 M	51人以上 SD
授業準備・内容	1 準備されていた教材（配布資料・動画・スライドなど）は十分だったと思いますか。	176	4.68	0.18	2559	4.47	0.34	3833	4.39	0.40
	2 授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	175	4.74	0.19	2558	4.60	0.26	3834	4.53	0.32
授業方法	3 質問をする機会は十分あったと思いますか。	176	4.59	0.29	2558	4.36	0.34	3833	4.19	0.34
	4 自ら学ぶように促されたと思いますか。	176	4.66	0.22	2557	4.52	0.25	3831	4.30	0.32
教員の意欲	5 教員は、はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。	176	4.77	0.24	2559	4.53	0.45	3834	4.40	0.48
	6 教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	176	4.69	0.23	2558	4.43	0.44	3834	4.39	0.42
	7 教員は、学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。	175	4.62	0.21	2535	4.46	0.34	3810	4.35	0.37
学ぶ意欲	8 あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	176	4.66	0.15	2556	4.41	0.39	3833	4.27	0.41
	9 あなたは、この授業を受けたことのない人に薦めたいと思いますか。	176	4.54	0.35	2557	4.25	0.50	3832	4.12	0.48
	10 あなたは、授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。	175	4.21	0.44	2557	4.16	0.33	3831	3.99	0.30
	11 あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。	176	4.48	0.30	2554	4.21	0.34	3836	4.23	0.32
計画性	12 あなたは、時間を決めて受講するなど、この授業を計画的に受けられましたか。	110	4.46	0.25	1328	4.42	0.30	2050	4.33	0.28
課題量	13 この授業の課題の量はどうでしたか。	176	3.16	0.24	2554	3.26	0.33	3834	3.16	0.20
難易度	14 授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	176	3.27	0.35	2557	3.36	0.40	3835	3.40	0.34

（３）通信教育課程における授業評価アンケート

１）授業評価アンケートの内容

通信教育課程において、授業評価アンケートは CoLS 上の「授業評価」メニューにて回答できる。以下に、Web による授業評価アンケートの内容を記す。

① 質問項目

通信教育課程では、その授業実施形態によって 4 つの種類が存在している。4 種とは、テキスト科目、スクーリング科目（対面授業）、スクーリング科目（メディア授業）、テキストスクーリング科目を指す。それぞれ、実施形態に合わせて授業評価アンケートの質問項目を設定し、項目内容は後掲の表 11 の通りである。

②回答の選択肢

難易度以外の項目については、5 段階（1．そう思う、2．ややそう思う、3．どちらともいえない、4．あまりそう思わない、5．そう思わない）で回答を求めた。いずれの項目についても、集計の際には選択肢の値を逆転し、「そう思う」ほど得点が高くなるよう集計した。また、「難易度」については、5 段階（1．ちょうどよい、2．やや難しい／やや易しい、3．難しい／優しい） で尋ね、集計の値は 1．5 点　2．3 点、3．1 点として集計した。

③自由記述

アンケートの最後に、授業についての「よかった点」と「改善点」を問う自由記述（自由入力）欄、及びその他の自由記述欄を設けた。

④無記名による授業評価アンケートの実施

通信教育課程では CoLS の授業評価機能を使用しているが、開学時より全て匿名での回答ができる設定・機能になっている。これは、終了後に内容を確認する担当教員側では勿論、集計作業をする事務側でも分からない完全匿名制を担保するシステムとなっている。

２）実施手続き

①実施

EM 局通信教育部にて、授業形態によって開講時期等様々である内容の設定を行い、アンケート開始時と終了間際に CoLS より学生に実施の周知のお知らせを発信した。

②実施時期

授業形態によって開講時期が異なり、以下のように実施した。

・テキスト科目：各ターム終了直後の 3 週間

・スクーリング科目（対面）：対面授業終了翌日より 3 週間

・スクーリング科目（メディア授業）：メディア授業期間終了翌日より 3 週間
・テキストスクーリング科目：対面授業終了翌日より 3 週間

③実施科目

テキスト科目、スクーリング科目（対面）、スクーリング科目（メディア授業）、テキストスクーリング科目の 4 種については全科目にて実施した。実習科目及び卒業研究科目については実施していない。

３）通信教育課程における回答結果

①回答者数

2022 年度秋学期：3661 件（延べ件数）
2023 年度春学期：4198 件（延べ件数）

② 回答結果及び平均値について

各設問のポイント平均値を算出したのが表 11 である。以下に授業形態毎の傾向を述べる。

テキスト科目については、全て自宅学習で完結する授業形態から、学生と担当教員とのやり取りが少ないため、全体的に平均値が低い傾向がある。

スクーリング科目（対面授業）については、例年通り高い平均値を維持している。これは、通信教育課程の中では機会が少ない実際の教員から直に指導を受けられる機会であることが最大の要因であると考えられる。また教員・学生相互に熱心である授業が多く、満足度が高いと言えるだろう。

スクーリング科目（メディア授業）については、現状平均値が低くなっている。メディア授業は動画の授業を自宅で視聴する形での受講形態となるが、例えば CoLS 上でのディスカッション等が活発化しづらいこと、またいくつかの科目においては授業動画が古いことが課題となっており、一部科目では授業動画の再撮影を行う等により、内容の改善に努めている。

テキストスクーリング科目については、2019 年度より新たにできた授業形態となるが、テキスト学習後に対面の授業実施となる形式である。平均値は、スクーリング科目（対面授業）と同様に全体的に高い傾向となった。

また、各学期終了後、平均値と合わせて各担当教員に担当科目についての自由記述の内容を含めたアンケート結果の印刷物を配布しており、授業改善の一助となることを期待する。

表 11　通信教育課程授業評価アンケート項目・結果

【テキスト科目　全体平均値】

設問 No.	設問内容	2022 秋	2023 春
設問1	授業に用いられたテキストや学習の手引きは、適切な内容で分かり易かったと思いますか。	4.262	4.295
設問2	担当教員による科目に関しての指示や指導は分かりやすく、適切だったと思いますか。	4.264	4.286
設問3	担当教員は、学生の質問に適切に答えてくれたと思いますか。	4.208	4.199
設問4	あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	4.280	4.313
設問5	あなたは、この授業を受けたことがない人に薦めたいと思いますか。	4.141	4.135
設問6	授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	3.458	3.419

【スクーリング科目(対面、遠隔・ライブ)　全体平均値】

設問 No.	設問内容	2022 秋 (対 面)	2022秋 (遠隔・ライブ)	2023春 (対面)	2023 春 (ライブ)
設問 1	準備されていた配付資料や、ビデオ、スライドなどは十分だったと思いますか。	4.604	4.644	4.494	4.735
設問 2	授業の内容は、授業のテーマ(授業名やシラバス)に沿っていたと思いますか。	4.608	4.644	4.709	4.750
設問 3	質問をしたり、発表・ディスカッションをしたりする機会は十分にあったと思いますか。	4.606	4.373	4.614	4.522
設問 4	課題が提示されるなど、自ら学ぶように促されたと思いますか。	4.667	4.542	4.689	4.676
設問 5	担当教員は、はっきりとした声で説明をしていたと思いますか。	4.657	4.763	4.689	4.853
設問 6	担当教員は、熱意をもって授業をしていたと思いますか。	4.771	4.695	4.797	4.897
設問 7	担当教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	4.645	4.729	4.681	4.765
設問 8	担当教員は、学びやすい雰囲気を保つように努めていたと思いますか。	4.675	4.729	4.709	4.765
設問 9	あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	4.524	4.542	4.534	4.647
設問 10	あなたは、この授業を受けたことがない人に薦めたいと思いますか。	4.500	4.407	4.490	4.647
設問 11	授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	3.687	3.915	3.616	3.912

【スクーリング科目(メディア授業)　全体平均値】

設問 No.	設問内容	2022 秋	2023 春
設問 1	準備されていた配付資料や、ビデオ、スライドなどは十分だったと思いますか。	4.309	4.128
設問 2	授業の内容は、授業のテーマ(授業名やシラバス)に沿っていたと思いますか。	4.572	4.515
設問 3	興味の持てる授業になるよう授業構成(組み立て、時間配分等)が工夫されていたと思いますか。	4.229	3.984
設問 4	課題が提示されるなど、自ら学ぶように促されたと思いますか。	4.470	4.316
設問 5	発表・ディスカッションをする機会が設けられている等、掲示板は発言しやすい雰囲気でしたか。	3.856	3.667
設問 6	担当教員は、学生の質問に適切に答えてくれたと思いますか。	4.242	4.099
設問 7	担当教員は、はっきりとした声で説明をしていたと思いますか。	4.355	4.284
設問 8	担当教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	4.381	4.275
設問 9	担当教員からのお知らせは適切な時期に出されていましたか。	4.513	4.454
設問 10	あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	4.157	4.066

設問 11	あなたは、この授業を受けたことがない人に薦めたいと思いますか。	4.026	3.877
設問 12	授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	3.400	3.178

【テキストスクーリング科目　全体平均値】

設問 No.	設問内容	2022 秋（対面）	2023 春（対面）
設問1	授業に用いられたテキストや学習の手引きは、適切な内容で分かり易かったと思いますか。	4.482	4.611
設問2	担当教員による科目に関しての指示や指導は分かりやすく、適切だったと思いますか。	4.609	4.642
設問3	担当教員は、学生の質問に適切に答えてくれたと思いますか。	4.717	4.774
設問4	準備されていた配付資料や、ビデオ、スライドなどは十分だったと思いますか。	4.581	4.612
設問5	授業の内容は、授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。	4.740	4.724
設問6	質問をしたり、発表・ディスカッションをしたりする機会は十分にあったと思いますか。	4.615	4.682
設問7	課題が提示されるなど、自ら学ぶように促されたと思いますか。	4.672	4.751
設問8	担当教員は、はっきりとした声で説明をしていたと思いますか。	4.750	4.757
設問9	担当教員は、熱意をもって授業をしていたと思いますか。	4.786	4.869
設問10	担当教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。	4.656	4.778
設問11	担当教員は、学びやすい雰囲気を保つように努めていたと思いますか。	4.641	4.720
設問12	あなたは、この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。	4.620	4.676
設問13	あなたは、この授業を受けたことがない人に薦めたいと思いますか。	4.615	4.620
設問14	授業の難しさ・易しさはどうでしたか。	3.823	4.024

執筆担当

（1）および（2）　授業参観・評価中部会：杉本（雅）・森下

（3）　EM 局

５　ベストティーチャー賞の選出について

2023 年度ベストティーチャー選出基準に基づき、以下、10 名の方を FD 委員会で選出し、学長より表彰していただきました。

2023年度ベストティーチャー賞

部門	春学期		秋学期	
	教員名	科目名	教員名	科目名
総合ベストティーチャー	竹内　貞一	子ども音楽（K2C）	西村　実穂	乳児保育Ⅱ（K1E）
学生意欲ベストティーチャー	日向野　智子	対人コミュニケーションスキル②	吉田　めぐ	音楽実技ⅠB（K1E）
教員の意欲ベストティーチャー	川口　めぐみ	心理学概論（こころの形成）（保教②）	高橋　純一	社会①
授業準備・内容ベストティーチャー	須田　誠	教育・学校心理学A	横畑　泰希	乳幼児心理学（演習）（K1E）
授業方法ベストティーチャー	中井　彩香	心理学応用研究法実習B	藤後　悦子	子育てカンファレンス

各種別の基準

学生の意欲：以下４項目。「あなたは，この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。」,「あなたは，この授業を受けたことがない人に薦めたいと思いますか。」,「あなたは，授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。」,「あなたは，授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。」

教員の意欲：以下３項目。「教員は，はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。」,「教員は，具体例を挙げる，まとめを行うなどの工夫をし，わかりやすく説明していたと思いますか。」,「教員は，学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。（遠隔授業では，授業の受け方や配布資料の活用方法の説明，CoLS のお知らせ配信など。対面授業では，開始・終了時の挨拶や私語への注意など。）」

授業方法：以下２項目。「質問をする機会は十分あったと思いますか。」,「自ら学ぶように促されたと思いますか。」

授業準備・内容：以下２項目。「準備されていた教材（配布資料，動画，スライドなど）は十分だったと思いますか。」,「授業の内容は，授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。」

総合：全 11 項目。

（杉本（雅）・森下）

６　その他の活動

（１）発行物

2023 年 3 月に次の 2 点を発行した。

１　2023 年度教育改善向上（FD）活動年報（FD 活動報告書）
　　オンラインで発行し、FD 研修会で周知した。
２　2023 年度教育改善向上（FD）年報（FD 研究紀要）
　　全専任教員に配布のうえ、大学サイトにも掲載した。

（２）FD 図書の寄贈

2020 年度より、本学図書館に FD 関連の図書コーナーを設定している。本年度は、新たに下記の図書 11 冊を寄贈した。ぜひ活用してほしい。

東京大学教養教育高度化機構アクティブラーニング部門（編）(2021) 東京大学のアクティブラーニング: 教室・オンラインでの授業実施と支援，東京大学出版会

中井俊樹・上月翔太・橋本規孝（2022）カリキュラムの編成（シリーズ大学教育の質保証)，玉川大学出版部

竹中喜一・上月翔太・中井俊樹・中島英博（2023）学習成果の評価 （シリーズ大学教育の質保証 2)，玉川大学出版部

ジョン ハッティ・グレゴリー イエーツ（2020）教育効果を可視化する学習科学，北大路書房

学校広報ソーシャルメディア活用勉強会「これからの「教育」の話をしよう」2〜8 巻

（委員長）

付　録

東京未来大学　教育改善向上（FD）委員会

資料Ａ　授業評価アンケート実施要領（2023 年度秋学期版）

■ 遠隔授業内で授業評価アンケートを実施する場合

- 以下の例を参考に、配信する授業教材（音声付きパワーポイント等）の中で、また、CoLS の「お知らせ」機能をご利用いただき、授業評価アンケートに回答するようご指示ください。
- 回答率向上のため、配信する授業教材と CoLS「お知らせ」で発信するなど、複数の方法で回答を呼び掛けていただけますと幸いです。これらとは別の方法で学生にアンケートへの回答を呼び掛けていただいても構いません。
- 第 12 回あるいは第 13 回の授業にて、アンケートに回答するよう学生にご指示ください。その際、1 週間を目安として、回答期間もお伝えいただけますと幸いです。
- 休講や授業の進行状況等により、第 12・13 回授業での回答指示が難しい場合は、最終回の授業までのご都合のよいときに回答をご指示ください。2023 年 12 月 15（金）～2024 年 1 月 24 日（水）の期間内であれば回答できるようになっております（この期間外では、学生はアンケートに回答できません）。
- 2023 年度秋学期より回答者の匿名性の扱いを以下の通り変更し、授業評価アンケート実施の際に C-learning の自由記述式の設問項目に以下の文言を提示します。
  - 記入内容に責任を持って頂く為、2023 年度秋学期より匿名ではなく記入者情報を集めることにいたします。
  - 記入者情報は担当教員には公表しませんし、評価には影響しません。

【パワーポイントによる回答指示のスライド例】

授業評価アンケートの実施

- 授業および授業環境の改善のための基礎資料を得ることを目的として、授業評価アンケートを実施します。
- 回答内容によって授業の成績が左右されることはありませんので、質問には率直にお答えください。
- 結果はC-learning上で閲覧できます。
  - 閲覧可能期間：2 月 19 日～3 月 16 日
- 回答の協力をお願いします。

授業評価アンケートの回答方法

1. CoLSログイン直後の画面下部にある「授業評価アンケートサイトへ」をクリック
2. C-learningにログイン
   - IDは学籍番号(Sは大文字を使用)
   - パスワードは生年月日8ケタ(初期設定の場合)
   - ログインできない場合はEM室に問い合わせてください(電話やメールによる問い合わせも可)
3. 受講科目一覧から「●●●」を選択し、“授業に関するアンケート”に回答
4. 回答後の提出確認画面で「提出する」をクリックして終了

＊「●●●」には科目名を記入。

【CoLS「お知らせ」による回答指示の文面例】

授業評価アンケートへの回答をお願いします。▲月▲日までに以下の手順で回答してください。
＜回答方法＞
1. CoLS ログイン直後の画面下部にある「授業評価アンケートサイトへ」をクリック。
2. C-learning にログイン（ID は学籍番号（S は大文字）、パスワードの初期設定は生年月日 8 桁）。
3. 受講科目一覧から「●●●」を選択し、“授業に関するアンケート”に回答。
4. 回答後の提出確認画面で「提出する」をクリックして終了。
＜アンケートについて＞
・アンケートは、授業および授業環境の改善を目的として実施されているものです。
・回答内容によって授業の成績が左右されることはありません。率直にお答えください。
・結果は 2 月 19 日～3 月 16 日に C-learning 上で確認できます。

＊「●●●」には科目名を記入。

■ 対面授業内で授業評価アンケートを実施する場合

- 実施にかかる時間は、説明を含めて 10 分程度を想定しています。第 12 回か第 13 回の授業の最初あるいは最後に時間をとっていただき、実施いただけますようお願いします。
- 休講や授業の進行状況等により、第 12・13 回授業での回答指示が難しい場合は、最終回の授業までのご都合のよいときに実施してください。12 月 15 日（金）～1 月 24 日（水）の期間内であれば回答できるようになっております（この期間外では、学生はアンケートに回答できません）。
- アンケート実施に先立ち、学生に情報通信機器（スマートフォンやパソコンなど）を用意させてください。スマートフォンで回答する学生はインターネット接続を Wi-Fi（eduroam）から 4G 等に切り替えるようご指示ください。
  - 同一教室内で学生が同時に Wi-Fi（eduroam）接続すると、回線が混雑して繋がりにくくなってしまう可能性があるため。
  - パソコンで回答する、通信速度制限を受けているなどで 4G 等の回線が利用できない学生には、Wi-Fi（eduroam）接続を許可してください。
- 次のの①～⑥を読みあげ、アンケートの回答を始めさせてください。回答が終了したころを見計らって⑦を読みあげ、アンケート終了としてください。
- 2023 年度秋学期より回答者の匿名性の扱いを以下の通り変更し、授業評価アンケート実施の際に C-learning の自由記述式の設問項目に以下の文言を提示します。
  - 記入内容に責任を持って頂く為、2023 年度秋学期より匿名ではなく記入者情報を集めることにいたします。
  - 記入者情報は担当教員には公表しませんし、評価には影響しません。

① 授業および授業環境の改善のための基礎資料を得ることを目的として、授業評価アンケートを実施します。アンケートの結果は、受講生の立場からの「評価」に止まるものではなく、今後の授業を学生・教員相互に満足いくものにしていくための「機会」にもなるものです。回答内容によって授業の成績が左右されることはありませんので、皆さんの正直な声を聞かせてください。

② CoLS にログインしてください。ログインしたら、画面の下の方にある「授業評価アンケートサイトへ」をクリックしてください。C-learning のログイン画面が表示されます。

③ C-learning にログインしてください。ID は学籍番号です。学籍番号の S は大文字を使ってください。パスワードは初期設定では生年月日 8 桁の数字になっています。

④ 受講科目一覧から、「●●●」（当該科目名）を選択し、“2023 年度秋学期授業に関するアンケート”に回答してください。

⑤ 回答内容の確認画面で「提出する」ボタンをクリックしたら、アンケートは終了になります。

⑥ それでは回答を始めてください。

＜回答終了後＞

⑦ これでアンケートを終了します。アンケートの結果と、結果に対する教員からのコメントは、2 月 19 日から 3 月 16 日の間に C-learning で確認できます。

■ 問い合わせ先

教員：教育改善向上委員会（fd-ml@tokyomirai.jp）

学生：EM 室（直接来室／電話 03-5813-2525／メール info@tokyomirai.jp）

＜資料B＞

東京未来大学
授業評価アンケートの手引き
（教員用）

2023年度秋学期版

[作成] 東京未来大学　教育改善向上委員会
fd-ml@tokyomirai.jp

目次

2023年度秋学期授業評価アンケートスケジュール・・・3

1. C-learningへのログイン・・・4

2. 登録科目の確認・・・6

3. アンケート結果の確認・・・7

4. アンケート結果に対するコメント入力・・・10

5. 科目トップ画面へ戻る、他の科目を選択する方法・・・11

授業評価アンケートに関するお問い合わせ先・・・12

2023年度秋学期授業評価アンケートスケジュール

1. 登録科目の確認(教員)

- 担当科目に誤りや漏れがないかC-learningでご確認ください。
  ※不備がございましたらfd-ml@tokyomirai.jpにご連絡ください。
- 期間：2023年12月6日（水）～12月14日（木）

2. 授業評価アンケート実施

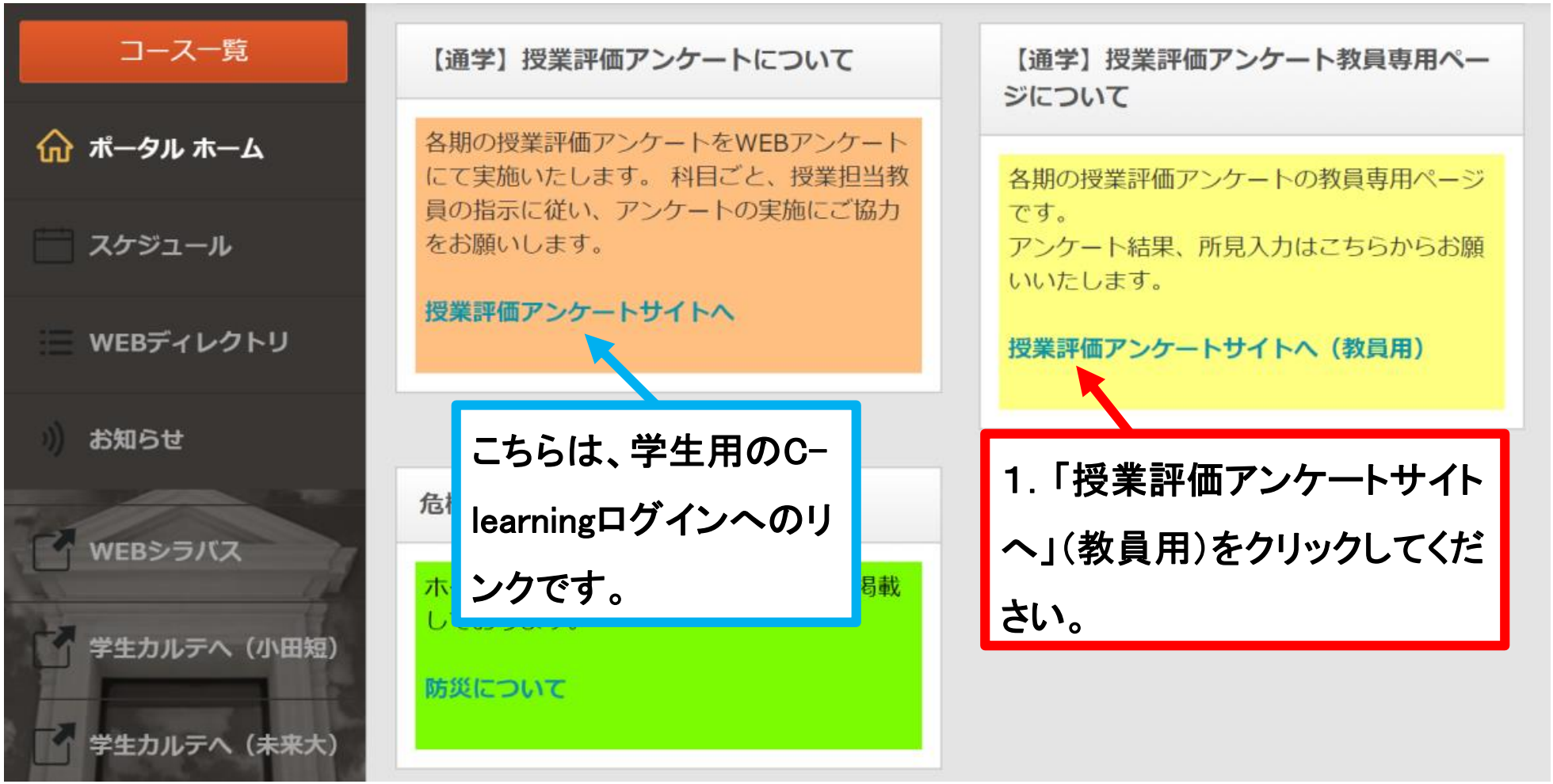
- 実施要領は資料Aをご覧ください。
- 期間：第12回～第13回授業
  ※この期間での実施が難しい場合は、最終回までに実施をお願いします。学生の回答可能最終日は2024年1月24日(水)です。

3. アンケート結果の確認とコメント入力

- アンケートを実施した科目はコメントを必ずご入力ください。
- 期間：アンケート終了～2024年2月16日（金）
- アンケートの結果とコメントは学生に公開されます。公開期間は2024年2月19日(月)～3月16日(金)です。

1．C-learningへのログイン

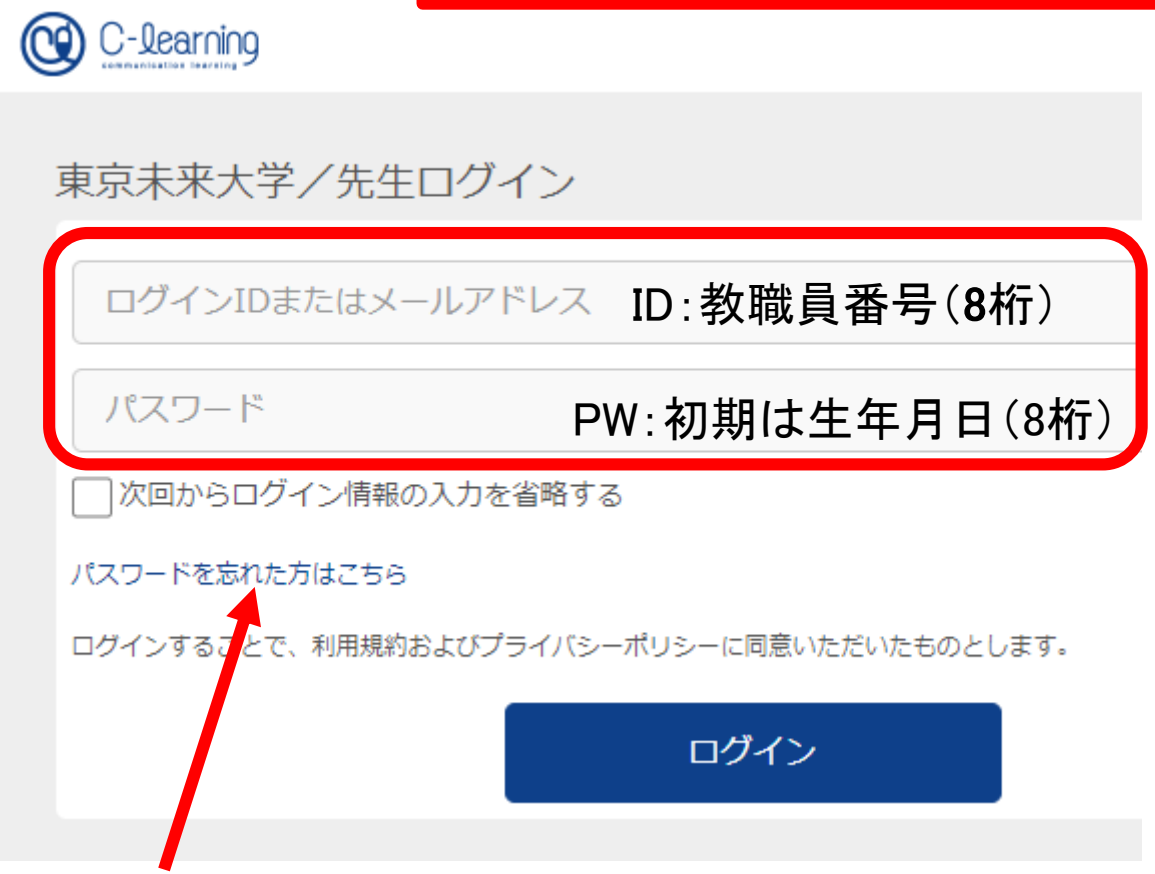
■PC版CoLSトップページ下部



■PC版C-learningログイン画面

https://tokyomirai.c-learning.jp/t/

ブックマーク登録をして利用されることをお勧めします。



※ あらかじめメールアドレスを設定されている場合のみ、こちらからパスワードリセットできます。

2. IDとパスワードを入力してログインします。

- IDはCoLSと同じ、教職員番号(8桁)です。
- PWの初期設定は生年月日(8桁)です。CoLSとは連動していません。
- ログインできない場合はfd-ml@tokyomirail.jp宛にご連絡ください。

2. 登録科目の確認

※2019年度の画面例を使用しています。
2023年度も同様の画面です。（以降、同様）

■C-learningログイン後の
講義一覧画面

①すべての担当科目
②複数教員が担当する科目における主担当科目（青色）
③複数教員が担当する科目における共同担当科目（緑色）
④担当者名または主担当者名（複数の場合は人数も表示）

講義名	講義コード	期/曜日/時限	履修人数	先生	TA	操作
心理学実験①	A1931002	2019年度 前期/金曜/4限	36名	[他6名]	未設定	≡
社会・集団・家族心理学A	A1831197	2019年度 後期	78名		未設定	≡
社会・集団・家族心理学B	A1931007	2019年度 前期/火曜/4限	65名		未設定	≡
心理調査課題演習（フィールドワーク）	A1931105	2019年度 後期	28名	[他2名]	未設定	≡

＜重要＞登録漏れや担当者の誤りなどがございましたら
fd-ml@tokyomirai.jp宛にご連絡ください

3. アンケート結果の確認

■講義一覧画面

1. アンケート結果の閲覧やコメントを入力したい科目名をクリックします。

講義名	講義コード	期/曜日/時限	履修人数	先生	TA	操作
心理学実験①	A1931002	2019年度 前期/金曜/4限	36名	[他6名]	未設定	≡
社会・集団・家族心理学A	A1931197	2019年度 後期	78名		未設定	≡
社会・集団・家族心理学B	A1931007	2019年度 前期/火曜/4限	65名		未設定	≡
演習Ⅰ	A1634002	2019年度 前期/水曜	4名		未設定	≡
卒業研究	A1634209	2019年度 通期	4名		未設定	≡
心理学統計法Ⅰ②	A1931103	2019年度 後期	41名		未設定	≡
演習Ⅱ	A1634101	2019年度 後期	4名		未設定	≡

■アンケート一覧画面

2.「学内アンケート」をクリックします。

3.「2021年度春学期授業に関するアンケート（匿名式）」をクリックします。

回答済みアンケート有を示すマーク　教員のコメント入力後は青色表示

■アンケート集計結果画面

4. 学生の回答結果をリアルタイムで閲覧できます

回答者数もリアルタイム表示されます

集計結果 （回答者数 1人／9人）

設問 1 この調査は，授業改善を目的として行うものです。上段：本講義の回答の和／回答者数
によってあなたが不利益を受けることはありませんので，率直にお答えください。
「回答する」を選択して次へ進んでください。

本講義の平均： 1.00

回答番号	回答内容	回答数	回答率	グラフ
回答1	回答する	1	100%	
	（無回答）	0	0%	

設問 2 あなたの専攻を選択してください。

本講義の平均： 2.00

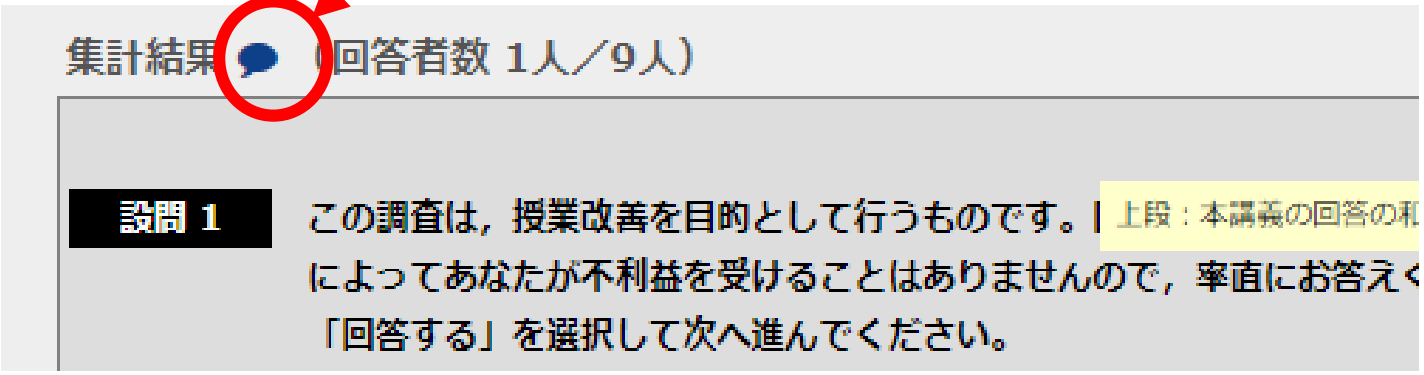
回答番号	回答内容	回答数	回答率	グラフ
回答1	こども保育・教育	0	0%	

この授業の回答平均と全学平均が表示されます。

4. アンケート結果に対するコメント入力

■コメント入力画面

1.「コメント」マークをクリックすると、入力部分に移動します。



2. アンケート結果に対する所見や授業改善についてコメントを入力し、登録を押してください。

5. 科目トップ画面へ戻る、他の科目を選択する方法

■左側の科目一覧

左端の科目一覧（左図）の科目名をクリックすると、選択した科目のトップ画面（下図）に切り替えることができます。

■科目のトップ画面

授業評価アンケートに関するお問い合わせ先

学生：EM室{EM室来室 or 電話(03-5813-2525) or メール(info@tokyomirai.jp)}

教員：教育改善向上委員会(fd-ml@tokyomirai.jp)へメールでお問い合わせください。

以下の資料もご確認ください。

「授業評価アンケート実施のお願い」
「資料A 授業評価アンケート実施要領」

学生がアンケートに回答する手順は、以下の資料でご確認いただけます。

「資料C 授業評価アンケートの手引き（学生用）」

＜資料C＞

東京未来大学
授業評価アンケートの手引き
（学生用）

2023年度秋学期版

[作成]東京未来大学　教育改善向上委員会

授業評価アンケート協力のお願い

- 授業評価アンケートは、授業および授業環境をより良いものにしていくことを目的として実施しています。各授業でのアンケート回答にご協力くださいますよう、お願いします。
- 回答内容は授業の成績に反映されませんので、質問に率直にお答えください。なお、他者を不当に貶めようとする回答や虚偽の回答、実名の記載はしないようにしてください。
- 授業評価アンケートに関して質問等がある場合は、EM室にお問い合わせください。

  問い合わせ方法：EM室に直接行く／電話／メール（info@tokyomirai.jp）

【回答方法】

- 次ページ以降に具体的な回答方法が示されています。手順にしたがって、スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器で回答してください。
- 授業で教員からアンケート実施の指示があったら、回答をお願いします。
  - 遠隔で行われている授業では、CoLSのお知らせでアンケートへの回答が指示されることがあります。お知らせを確認するようにしてください。
- 以下の授業では原則アンケートを実施していませんが、教員から回答の依頼があったらご協力をお願いします。

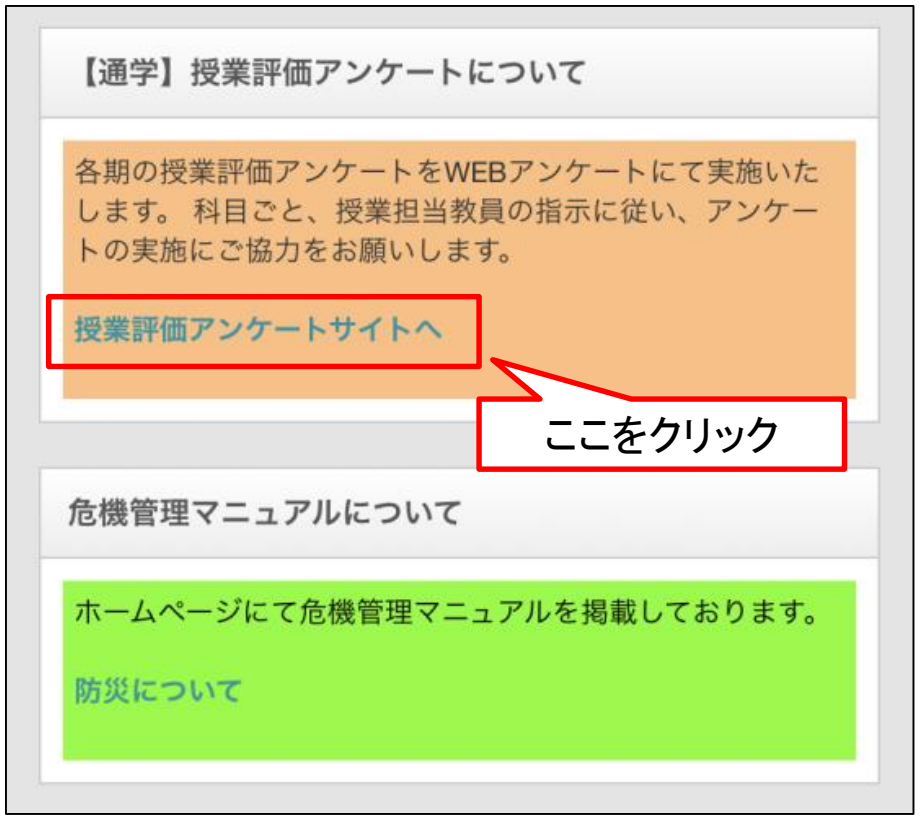
  ・ゼミ　　・心理実習、教育実習、保育実習、および各実習の事前・事後指導

  ・集中講義の授業　　・受講者数が10名未満の授業

  ・12月15日までに授業が終了している科目

手順1. 授業評価アンケートサイト「C-learning」にログインする。

①CoLSログイン後の画面下部にある「授業評価アンケートサイトへ」をクリック

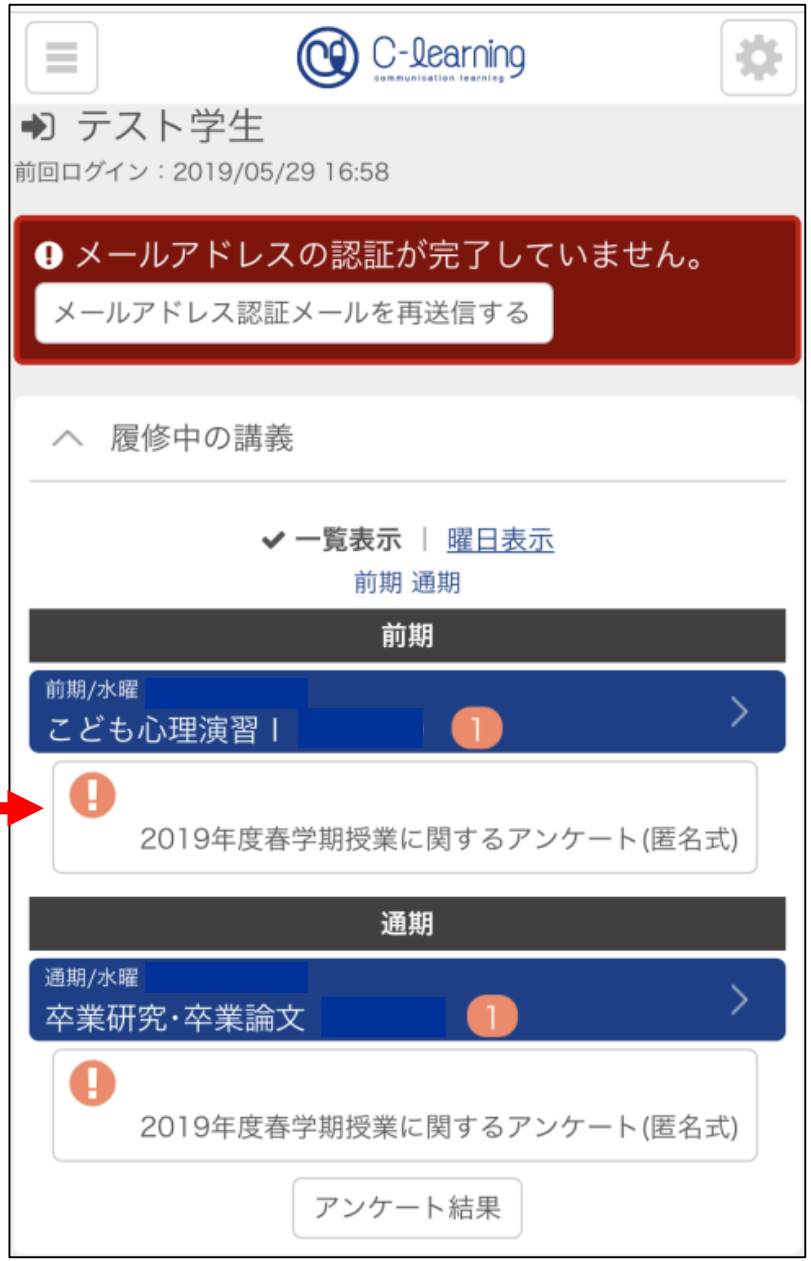


②C-learningにログインする

- IDは学籍番号 ※Sは大文字
- パスワードの初期設定は生年月日8桁（昨年度自分で変更した方も、生年月日8桁で再設定しています）
- ログインできない場合はEM室まで連絡してください

※スマートフォンでの画面例を表示しています。

手順2. 回答する授業の「授業に関するアンケート」をクリックする。



履修科目が一覧表示される

手順3. 質問に順番に答えていく。

設問1と5は、アンケートに関する説明です。
「回答する」を選択して回答を進めてください。

設問.1

この調査は，授業改善を目的として行うものです。回答はすべて統計的に処理されます。回答することによってあなたが不利益を受けることはありませんので，率直にお答えください。
「回答する」を選択して次へ進んでください。

○ 回答する

自由記述式の設問では、四角の中に回答を記述してください。

設問.20

この授業について，改善してほしい点があれば具体的に記述してください。

選択式の設問では、選択肢の中から1つを選んで回答してください。

設問.6

準備されていた配布資料や，ビデオ，スライドなどは十分だったと思いますか。

○ そう思う

○ ややそう思う

○ どちらともいえない

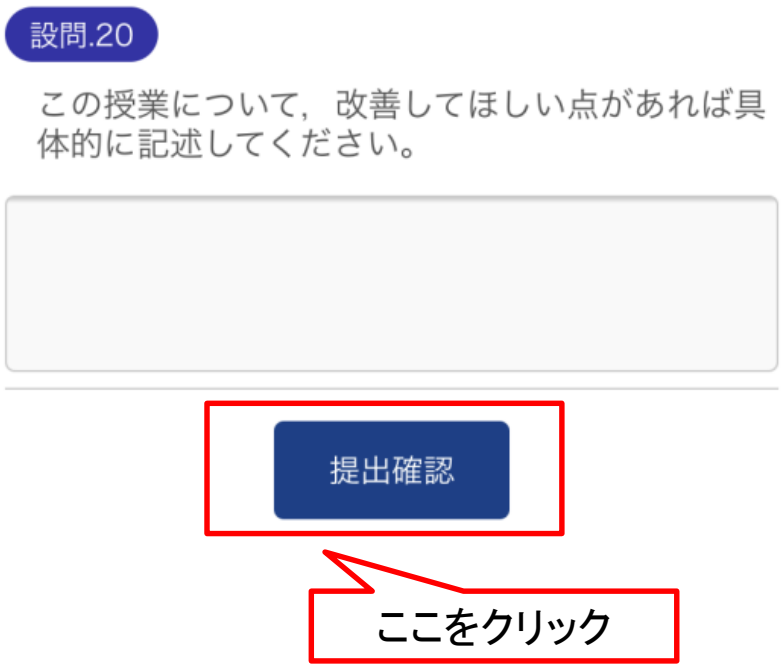
○ あまりそう思わない

○ そう思わない

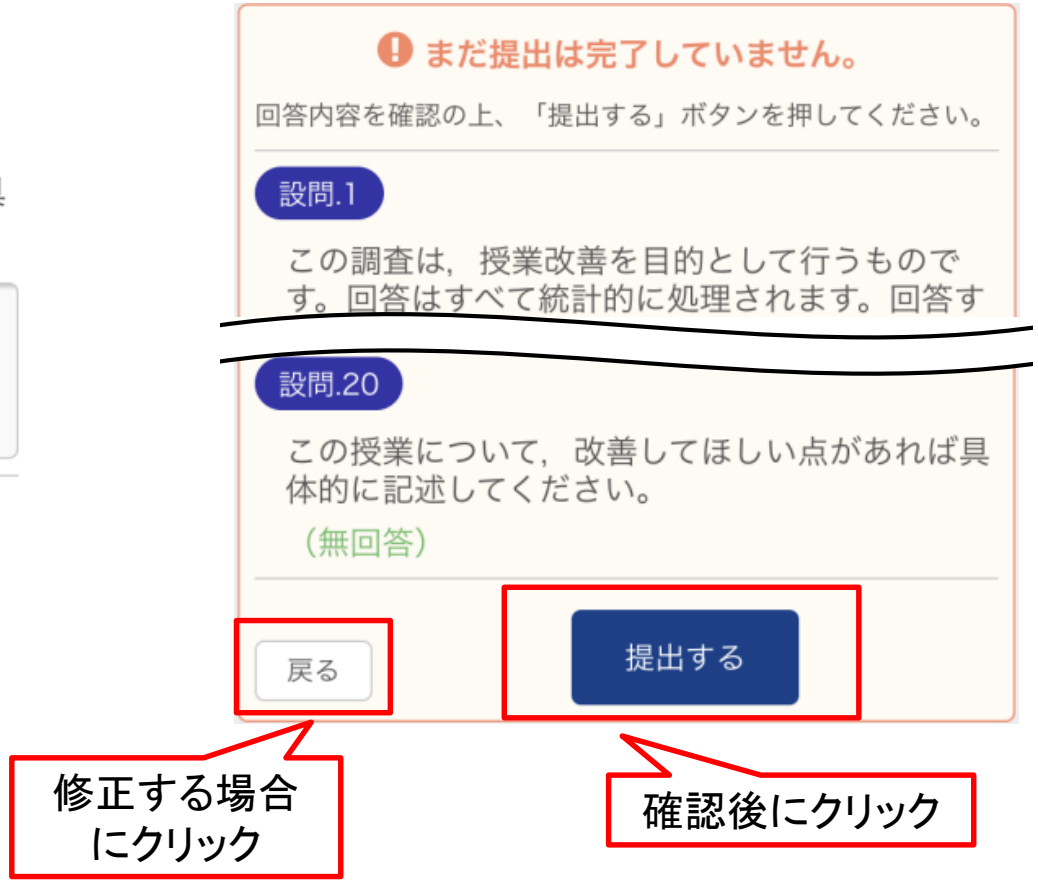
※ 質問の内容がこの授業に該当しない場合や、質問に答えたくない場合は、その質問には回答せず、次の質問へ進んでください。

手順4. 回答後に「提出確認」をクリックし、確認をして「提出する」をクリックする。

①回答が終わったら「提出確認」ボタンをクリック



②回答内容を確認して「提出する」ボタンをクリック

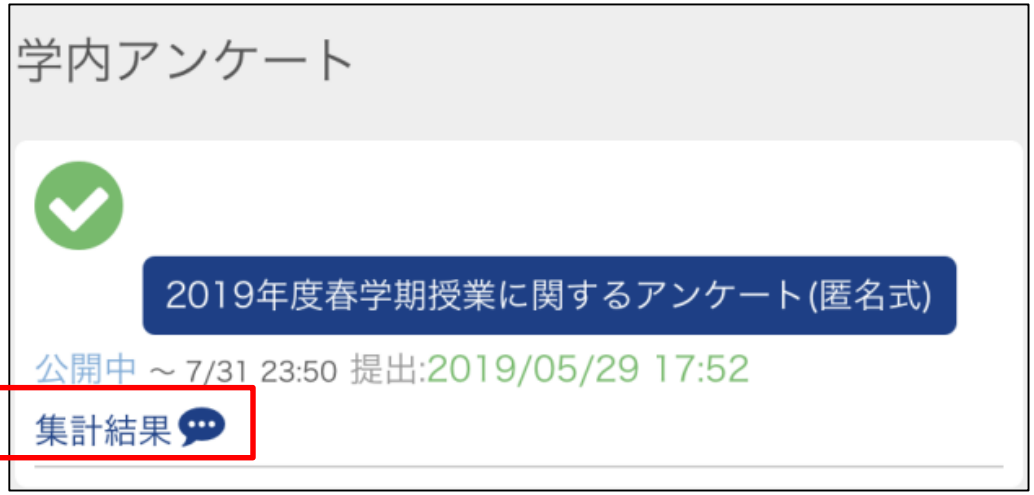


※一度提出すると「答え直す」ことはできません。

アンケートの結果と教員からのコメントの公開について

- 回答したアンケートの結果と教員からのコメントは、公開期間中に確認することができます。
- 春学期授業評価アンケート結果の公開期間は2月19日(月)～3月16日(金)です。

公開期間中にここをクリックすると、集計結果を確認できます。



授業評価アンケートに関する問い合わせ先

EM室に以下のいずれかの方法で問い合わせてください。

- 方法1：電話(03-5813-2525)かメール(info@tokyomirai.jp)
- 方法2：EM室に直接来室(対面授業等で登校している場合)

※ 新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、対面授業等で登校している場合以外は方法1で問い合わせてください。

令和 5（2023）年 11 月吉日

教職員各位　　東京未来大学教育改善向上（FD）委員会

2023 年度秋学期授業評価アンケート実施のお願い

授業評価アンケートは、本学の基本方針に基づき、授業および授業環境をより良いものにしていくことを目的として実施するものです。新型コロナウィルス感染症の影響により、今学期も通常とは異なる授業運営をお願いしておりますところ、お手数をおかけいたしますが、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

授業評価アンケートは、C-learning を利用して web 上で実施します。以下をご覧いただき、ご担当いただいている授業にて実施いただけますようお願いいたします。

1.　実施科目

下記［実施除外科目］を除く全科目。なお、C-learning では、秋学期に開講されている全科目において授業評価アンケートが実施できるようになっております。ご希望でしたら、実施除外科目で授業評価アンケートを実施していただいても構いません。

［実施除外科目］

- ゼミ（演習Ⅰ、卒業研究・卒業論文等）
- 心理実習、教育実習、保育実習、および各実習の事前・事後指導
- 受講者数が実質 10 名未満の科目
- 集中講義で行われる科目
- アンケート実施期間までに全授業が終了している科目

2.　実施方法の概要および期間

授業評価アンケートの実施にあたり、以下 3 点をご依頼申し上げます。なお、それぞれの詳細な説明・手順等については、別添の資料にまとめておりますのでご覧ください。

(1)　登録科目の確認

C-learning にログインいただき、秋学期にご担当いただいている授業（複数教員で担当されている授業を含む）について、科目名が正しいか、科目の漏れがないかをご確認ください。複数教員で担当している授業の代表教員の方は、全員が「先生」欄に含まれているかもご確認ください。不備がございましたら、FD 委員会メーリングリスト（fd-ml@tokyomirai.jp）宛にご連絡ください。

［詳細参照先］　登録科目確認の手順は「資料 B 授業評価アンケートの手引き（教員用）」のスライド 4～6 を参照

［期間］2023 年 12 月 6 日（水）～12 月 14 日（木）

(2) 授業評価アンケートの実施

第 12 回あるいは第 13 回に相当する授業において、授業評価アンケートへの回答を受講生に指示いただき、実施してください。実施時間は 10 分程度を想定しています。質問項目は別表をご覧ください。

2023 年度秋学期より回答者の匿名性の扱いを以下の通り変更し、授業評価アンケート実施の際に C-learning の自由記述式の設問項目に以下の文言を提示します。

- 記入内容に責任を持って頂く為、2023 年度秋学期より匿名ではなく記入者情報を集めることにいたします。
- 記入者情報は担当教員には公表しませんし、評価には影響しません。

［詳細参照先］具体的な実施手順は「資料 A 授業評価アンケート実施要領」を参照
学生の回答手順は「資料 C 授業評価アンケートの手引き（学生用）」を参照

［期間］2023 年 12 月 15 日（金）～2024 年 1 月 24 日（水）

(3) アンケート結果の確認とコメント入力

アンケート実施後、C-learning にログインして結果をご確認いただき、コメントをご入力ください。なお、アンケートの結果とご入力いただいたコメントは、C-learning 上で受講生にも公開されます。

［詳細参照先］ 結果確認とコメント入力の手順は「資料 B 授業評価アンケートの手引き（教員用）」のスライド 7～10 を参照

［期間］アンケート実施後～2024 年 2 月 16 日（金）

3. 問い合わせ先

授業評価アンケートに関するご質問等は、FD 委員会（fd-ml@tokyomirai.jp）までお願いいたします。なお、学生の問い合わせ先は EM 室となっております。学生には FD 委員会のアドレスを開示しないようお願いいたします。

別表　2023年度秋学期授業評価アンケート質問項目

設問	質問文
1	この調査は，授業改善を目的として行うものです。回答は統計的に処理されます。回答内容は成績評価に反映されませんので，質問に率直にお答えください。なお，他者を不当に貶めようとする回答や虚偽の回答はしないようにしてください。 「回答する」を選択して次へ進んでください。
2	あなたの学部・専攻を選択してください。 {こども保育・教育，こども心理／心理，モチベーション行動科学}
3	あなたの学年を選択してください。{1年生，2年生，3年生，4年生}
4	あなたの性別を選択してください。{男性，女性，答えない}
5	この授業についてお尋ねします。各質問に対して，もっともよくあてはまると思うところを選択してください。ただし，質問の内容がこの授業に該当しない場合や，質問に答えたくない場合は，その質問には回答せず，次の質問へ進んでください。 「回答する」を選択して各質問へ進んでください。
6	準備されていた教材（配布資料，動画，スライドなど）は十分だったと思いますか。
7	この授業の内容は，授業のテーマ（授業名やシラバス）に沿っていたと思いますか。
8	この授業は質問をする機会は十分あったと思いますか。
9	この授業は自ら学ぶように促されたと思いますか。
10	教員は，はっきりとした声や言葉で説明をしていたと思いますか。
11	教員は，具体例を挙げる，まとめを行うなどの工夫をし，わかりやすく説明していたと思いますか。
12	教員は，学びやすい授業環境を作るように努めていたと思いますか。（遠隔授業では，授業の受け方や配布資料の活用方法の説明，CoLSのお知らせ配信など。対面授業では，開始・終了時の挨拶や私語への注意など。）
13	あなたは，この授業によって身についたものに満足できたと思いますか。
14	あなたは，この授業を受けたことがない人に薦めたいと思いますか。
15	あなたは，この授業に参加するにあたって十分に準備をして臨みましたか。
16	あなたは，この授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。
17	あなたは，時間を決めて受講するなど，この授業を計画的に受けられましたか。（遠隔で実施された授業があった場合のみ回答してください。）
18	この授業の課題の量はどうでしたか。 {多い，やや多い，ちょうどよい，やや少ない，少ない}
19	この授業の難しさ・易しさはどうでしたか。 {難しい，やや難しい，ちょうどよい，やや易しい，易しい}
20	この授業について，よかった点があれば具体的に記述してください。なお、以下のことに留意してください。 ・ 記入内容に責任を持って頂く為、2023年度秋学期より匿名ではなく記入者情報を集めることにいたします。 ・ 記入者情報は担当教員には公表しませんし、評価には影響しません。
21	この授業について，改善してほしい点があれば具体的に記述してください。なお、以下のことに留意してください。 ・ 記入内容に責任を持って頂く為、2023年度秋学期より匿名ではなく記入者情報を集めることにいたします。 ・ 記入者情報は担当教員には公表しませんし、評価には影響しません。

＊　質問 6～質問 17 の選択肢　｛そう思う，ややそう思う，どちらともいえない，あまりそう思わない，そう思わない｝

＊　質問 1 と質問 5 は回答方法に関する説明です。選択肢として｛回答する｝が設けてあり、これを選択すると次に進めるようになっています。

合理的配慮を要する学生の支援について
～発達障害学生への支援を中心に～

筑波大学
ヒューマンエンパワーメント推進局
脇　貴典

障害者差別解　去では何か求められるのですか？

合理的配慮の提供

不当な差別的取り扱いの禁止

合理的配慮の提供

障害のある人は、社会の中にあるバリアによって生活しづらい場合があります。
この法律では、大学に対して、障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。

内閣府障害者差別解消法リーフレットより

不当な差別的取り扱いの禁止

大学側が障害のある人に対して、正当な理由なく障害を理由として差別することを禁止しています。

対象となる障害者は？

この法律に書いてある障害者とは、障害者手帳をもっている人のことだけではありません。
身体障害、発達障害、精神障害、その他の心や体のはたらきに障害のある人が対象です。

内閣府障害者差別解消法リーフレットより

瘴害学生数の推移（日本）

日本における障害学生の大学等在籍者数が増加傾向

日本学生支援機構による調査結果（R3年度）

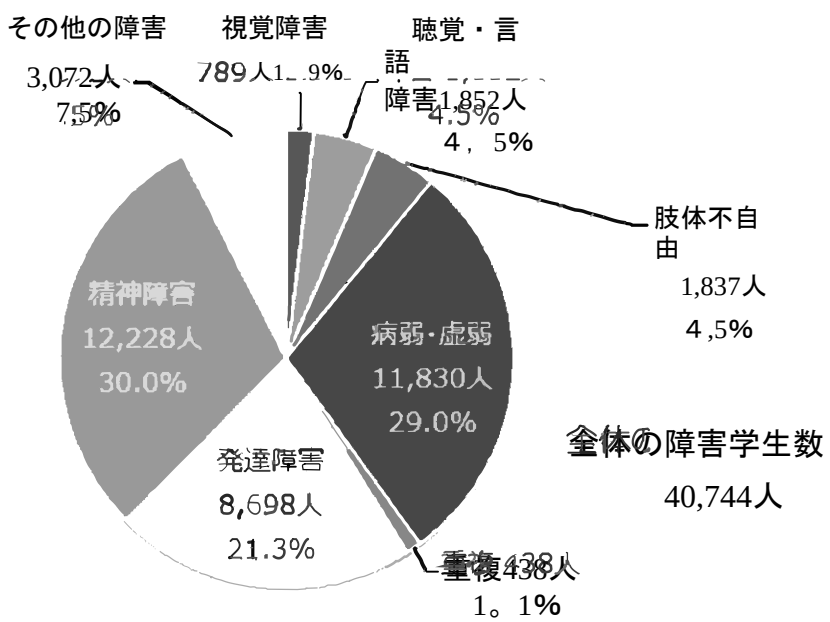
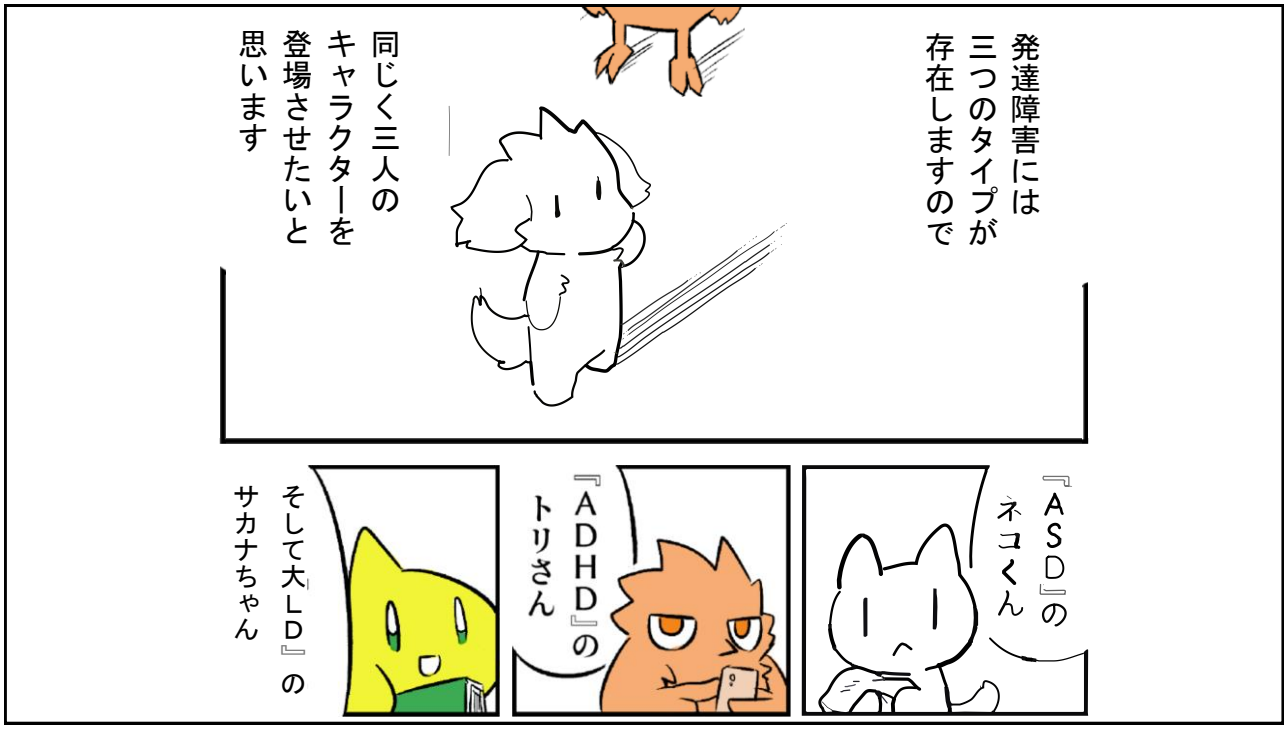


図1障害学生数［障害種別］



根拠資料の提供が困難な場合

根拠資料を取得する上での支援を行うことや，建設的対話等を通じて，本人に社会的障壁の除去の必要性が明白であることが現認できる場合には，資料の有無に関わらず，合理的配慮の提供について検討することが重要である。

文部科学省第二次まとめより

建設的対話：本人の意思決定を重視し，意思確認が不在のまま，一方的
に合理的配慮の内容の決定が行われることは避けなければならない。

Ｌｅａｍｉｎｇ Ｓｕpport Book（LSB）

【LSBの特徴】

- 発達障害のある方がもつ独自の視点や経験に関する情報を収集
  学業や生活に役立つ情報を配信
  特に発達障害学生に有効な
  ハイテク・ローテク支援技術
  （Assistive Technolo9y）
  に関する情報を掲載
- “障害”ではなく”ニーズ”表記
  「障害」のラベルを基本的に
  用いないデザイン
  医学的診断に抵抗がある学生
  でもアクセスしやすい
- 大学生のサポーターが作成
  学生目線での情報配信が可能

※他の高等教育機関（大学゛短大゛専門学校）は、９
７カウント申請によりトライアル版が閲覧可能

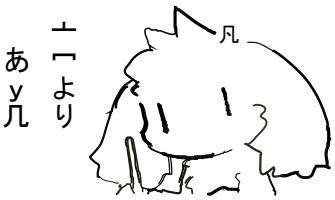
スタディスキル・コーチング

- 学業スキルの向上を目指したアドバイス
- アセスメント結果に基づき、得意や苦手に応じた方法を提案

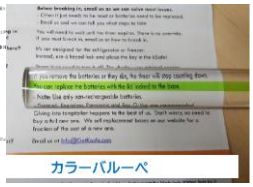
【タスク・スケジュール管理方法】
履修計画の作成
レポートや課題の締切管理
研究の進捗管理　など

スタディスキル･コーチング

【レポートや課題の作成方法】
アイデアのまとめ方
関連情報の集め方　など

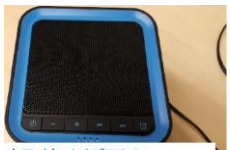


支援技術の体験・貸出


カラーバルーペ

紛失防止タグ

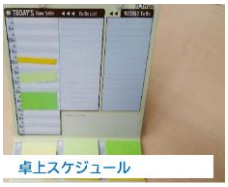
ごほうびボックス


ホワイトノイズマシン

録音機能付きデジタルペン

各種タイマー

ノイズキャンセリング


卓上スケジュール

支援技術の体験・貸出

11

ご静聴ありがとうございました

合理的配慮の入口から
出口まで

2023年9月20日

FD研修：EM局CA田中翔

本日お話させていただく内容

- 合理的配慮の入口
- 合理的配慮の出口
- 入口と出口の間の話

入口の話

申請の流れ

面談 → 配慮願 診断書 → 支援内容書 → 各種会議 → 教員周知

学修上の配慮と手続きに関する事前説明シートについて

- 須田・横畑・山極・岡本・田中が２０１９年に作成（その後一部改訂）
- 学生本人と保護者保証人に☑をつけながら説明を行う
- 項目例

⑥ 本人が希望した配慮について、必ずしも大学が全て提供できる訳ではなく、単位修得や卒業を担保するものではないと担当のCAから説明を受けた。

（ア）科目によって授業内容や到達目標が違うので配慮内容は異なる場合がある。配慮願の申請手続き後、個別に可能な環境調整等の合理的な配慮を検討する。

（イ）単位修得や卒業の保証をするものではない。つまり、成績を上げることや、欠席をレポート等の補填課題で出席扱いにすることはしない。「授業に出席できない」のならば、「どうすれば授業に出席できるのか」を話し合う。

（ウ）配慮を提供しても、単位修得、資格・免許取得、卒業に至らないこともある。

２０２３年秋学期からの変更点

①面談における心理臨床センター教員の同席

②配慮事項を診断書内に記載すること

出口の話

卒業後の環境を意識しながら

- ４年間配慮を受けた学生は、卒業後どのように過ごしているのだろうか

→卒業後の環境を意識して関わる必要あり（文言検討）

→学生が困ることにならないように（文言検討）

入口と出口の間の話

合理的配慮の場をどう生かすか

- 当該学生の自己理解や大学適応促進

→配慮内容から自身の障害理解やその対処方法を検討する

- 大学と保護者・保証人との連携

→面談をよい契機として連携が可能になる

- 自身に合った進路選択を判断する材料に

→卒業後の職場環境を考えるために

振返ること

- 学生本人
  学期ごとの配慮内容の振り返り
  卒業後の環境を念頭にできることや対処法を増やしていく
- 大学
  配慮を受けた学生が進級や卒業できているのか
  配慮を受けた授業のカリキュラム目標に到達できているのか
  学生生活をどのように過ごしていたのか
- 学生と大学の継続的な建設的対話

ご清聴ありがとうございました。

合理的配慮を要する学生に向けた実習指導の現状

保育・教職センター

合理的配慮を申請した学生に対して

- 実習事前・事後指導においては、支援内容書に基づき、可能な範囲での対応を検討
- 学外実習においては、「健康等に関する申告書」に基づき、実習の目的を踏まえて対応を相談・検討

（実習先へ伝える内容も含む）

教育実習（幼稚園）における事例

「合理的配慮に関する申請」における支援内容

① 録音機器による授業内容の録音
② 座席位置の配慮
③ スライド等資料の事前配布

「健康等に関する申告書」の内容

主な症状

- 一度に複数のことを行うことが難しい。
- 何を優先すべきかわからなくなる。
- 物忘れや不注意が多い。
- 不安時にどうして良いかわからなくなる。

実習先に依頼したい配慮事項

- 障がいや特性に対する理解
- 優先すべきことの指示
- 服薬の承諾

※本事例は、個人が特定されないよう一部の情報を加工した。

教育実習（幼稚園）における事例

- 合理的配慮を申請することによって、学外実習においても同等の配慮がなされるものと認識していた。
- 事前に申請された配慮内容は、学外実習においても適用できるものではなかった。
- 実習は、職業選択に大きく影響するため、実習先に配慮を求めることよりも、自分自身で調整することの具体策を検討することが重要ではないか。

保育実習（保育所、施設）における事例

「合理的配慮に関する申請」における支援内容

保育実習（新規申請）

① 授業内容の録音、資料の事前配布
② 静穏な授業環境
③ 諸種の手続きにおける遺漏、不備等の指摘・助言

保育実習（追加申請）

① 授業時や実習中における説明の具体性
② 症状等に対する理解
③ 症状が現れた際の場面に応じた適宜対応

「健康等に関する申告書」の内容

保育実習（１回目）
申告事項なし

保育実習（２回目）
指示を受けた際に正確に理解できているか不安、準備や手続きを間違いなく進めることができるか不安

保育実習（３回目）
指示や説明を受けた際、理解に時間がかかることへの不安、不備があった際に指摘や助言を受けたい等

※本事例は、個人が特定されないよう一部の情報を加工した。

保育実習（保育所、施設）における事例

- 事前指導開始までに合理的配慮は申請されていなかったが、部署間での情報交換など連携によって対応した。
- 「健康等に関する申告書」によって把握は可能だが、人的資源は十分ではなく、対応等の判断も困難であった。
- 学生及び保護者の中には、合理的配慮に関する事項を実習先に伝えることで受け入れ不可になるかもしれないという懸念をもつかもしれない。
- 実習段階の進行によって、資格取得後のイメージをもつために種々の質問が生じることがあるかもしれない。

合理的配慮に関連して予測される事項

- 想定される事例について事前に説明するが、保護者等にそれを理解されない場合の対応。
- 実習において生じた問題について、実習生本人がそれを理解できない場合の対応。
- 実習継続が困難と判断せざるを得ない状況において、保護者等が継続を強く要望する場合の対応。

合理的配慮に関する困りごとの現状および経過

学生相談室

2023年　9月20日

心理臨床センター　学生相談室長

山極　和佳

はじめに：困りごとの現状および経過

●申請の際に根拠とされる障害や疾患別の困りごと

☞本学の合理的配慮申請で多くみられる障害・疾患

1. 注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害（ADHD）
2. 自閉スペクトラム症／自閉スペクトラム障害（ASD）
3. 不安症群／不安障害群（パニック障害など）

●困りごとに対応した希望する配慮内容＊

＊配慮が難しかったもの、申請を見合わせたものも含む

●配慮の経過など

1．注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害（ADHD）：行動特徴

不注意：課題から気がそれることが多く、我慢したり集中し続けたりすることが困難

多動性：不適切な場面で過剰に動き回る

衝動性：事前に見通しを立てることなく即座に行動する

●これらの現れ（不注意優勢型／多動性・衝動性優勢型／混合型など）は個人によって異なる。

●合理的配慮に関連する困りごとは「不注意」に由来するものが多い（相談内容としては、衝動性に由来する対人関係のトラブルなどの問題もある）

1．注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害（ADHD）：合理的配慮に関連する困りごと

・遅刻や欠席が多い：スケジュール管理（時間にあわせて行動を制御）が難しい

例）「授業に備えて就寝」ができず朝起きられない。

・提出物や忘れ物が多い：例）レポートが出せないなど

・授業中の集中持続が困難：私語やスマホいじりなど

＊これらの困りごとは学業成績への影響も大きいが、これらを理由として来談する学生は少なく、他者（担当CA等）の促しでの来談も多い。

1. 注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害（ADHD）：希望する申請内容の実際

・遅刻や欠席が多い：スケジュール管理（時間に合わせて行動を制御）が難しい

例）「授

・提出物や忘れ物が多い：例）レポートが出せない など

・授業中の集中持続が困難：

・出席状況の確認
・提出物（期限等）の確認

・授業内容の視覚情報での提示
・資料の配布
（不注意、集中困難による「聞き逃し」を補うため）

＊これらの困りごとは学業成績への影響も大きいが、これらを理由として来談する学生は少なく、他者（担当CA等）の促しでの来談も多い。

2. 自閉スペクトラム症／自閉スペクトラム障害（ASD）：主な特徴

社会的・コミュニケーションの困難さ：情緒的な相互交流や非言語コミュニケーション行動、人間関係の構築や保持、理解などの難しさ

興味や行動の偏り：関心の持てる領域が限定的で過度に集中してしまう、自分（それまで）のやり方や手順へのこだわりが強く、急な予定変更や不測の事態に対して混乱してしまう

●その他、合理的配慮に関連するその他の特徴として、
特定の感覚刺激に関する敏感さ（による緊張の強さと疲れやすさ）や
2つ以上のことを同時に処理することの難しさなどがあげられる。

2. 自閉スペクトラム症／自閉スペクトラム障害（ASD）合理的配慮に関連する困りごと

社会的・コミュニケーションの困難さによるもの

・グループワークが苦手（場に応じた行動や発言が困難＋聴覚情報の処理が困難）

不測の事態や急な予定変更への対応への困難さによるもの

・授業内で指名されること／授業が始まるまで座席が分からないこと（授業回ごとに異なる座席指定）／授業の内容がわからないこと／・・・・が不安

感覚の敏感さによるもの

・周囲の音や光、においなどが気になり（過緊張）、休憩を要するほどに疲れやすい

その他（複合的）

・自由時間（休み時間・昼休み・空コマ）がつらい（過ごせない、どう過ごせばよいかわからない）、授業中の緊張感が強い、教室に入れない

2. 自閉スペクトラム症／自閉スペクトラム障害（ASD）希望する申請内容の実際

社会的・コミュニケーションの困難さによるもの

・グループワークが苦手（場に

・グループワークの代替課題

不測の事態や急な予定変更への対応への困難さによるもの

・授業内で指名されること／授
異なる座席指定）／授業の内

・指名や授業内容（流れ）の事前告知（できれば紙で）
・座席の固定化

感覚の敏感さによるもの

・周囲の音や光、においなどが

・イヤーマフの使用（音の遮断）／試験の別室受験
・疲労・パニック時の休憩場所の確保

その他（複合的）

・自由時間（休み時間・昼休み
からない）、授業中の緊張感が

・昼食や休憩場所の確保

3. 不安症群／不安障害群：分類（申請における診断名）と概要

不安の対象によって分類

パニック障害（「パニック発作」「過呼吸発作」）

広場恐怖症／社交不安・社会不安障害／全般性不安障害

●特定の場所（広場恐怖）や、大勢の人の中、人前（社交不安・社会不安）でパニック発作が生じてしまう、あるいは生じるのではないかという予期不安が強く、回避的となる。

3. 不安症群／不安障害群 合理的配慮に関連する困りごと

・授業中や大勢の人の中にいると、パニック発作が起きそうになる、起きてしまう

・他の学生の視線が気になる

・指名や発表（大勢の人の前で話す、注目される）が不安、できない

・授業内容がわからないこと（多くは発表やグループワーク、指名の有無）が不安

3. 不安症群／不安障害群
希望する申請内容の実際例

- 授業中や大勢の人の中にい
- 他の学生の視線が気になる
- 指名や発表（大勢の人の前で
- 授業内容がわからないこと（

- 一時退室の許可と出入り口に近い席の座席固定
- オンラインでの出席／出席にかわる課題での評価
- 最後列の座席固定
- 指名や発表機会・内容の事前告知
- 個別対応（代替方法や課題、免除など）
- 授業内容（発表、グループワーク、指名など）の事前告知（できれば紙で）

学生相談室からみた学生が抱える困りごと
合理的配慮の経過

- 本人が訴える「～ができない、難しい、苦手」は、心身の不安や緊張（による疲労感）、欠席状況、落ち着かなさ、集中困難に影響（本人は無自覚なことも）

  →配慮による経過：不安や緊張がある程度軽減し、出席や授業への集中やが可能となる。

- 申請によって配慮（対応）できるのは特性や症状の一部

  →本人が抱える困りごとがすべて解消されるわけではない。

  →特性や症状によって生じる困りごとは、個別対応が必要なものも多い。

- 継続申請における申請内容の再検討は有意義（配慮が不要になる／必要になる）

その他、カウンセラーの先生方からの所見

- 合理的配慮を希望する学生の傾向として、学業に対する意欲が高く、**「勉強熱心な学生」（融通がきかない、力を抜けないなどの障害の特性や要因でもある場合も）**も多い。その分本人の**不全感（自己否定感）**が強い。
- 保護者のサポートがあって日常生活や通学が成り立っている学生も多いため、保護者が疲弊していたり、相談ニーズがあったりもする。

さいごに：学生相談室での支援

●環境調整（合理的配慮）によらない困りごとの軽減

・障害や疾患（特性や症状）に関する自己理解を含めた心理教育

・困りごとの心理的要因（考え方や行動のパターン）に対する介入

・対処方法の検討：例　スケジュールの自己管理方法、一時退室以外の不安の解消方法　など

●情緒面のサポート

・不全感、自己否定感など

●周囲との連携

・教職員、保健室、保護者、医療機関など

合理的配慮とともに、
学生生活全般に対する
継続的な個別支援を行う